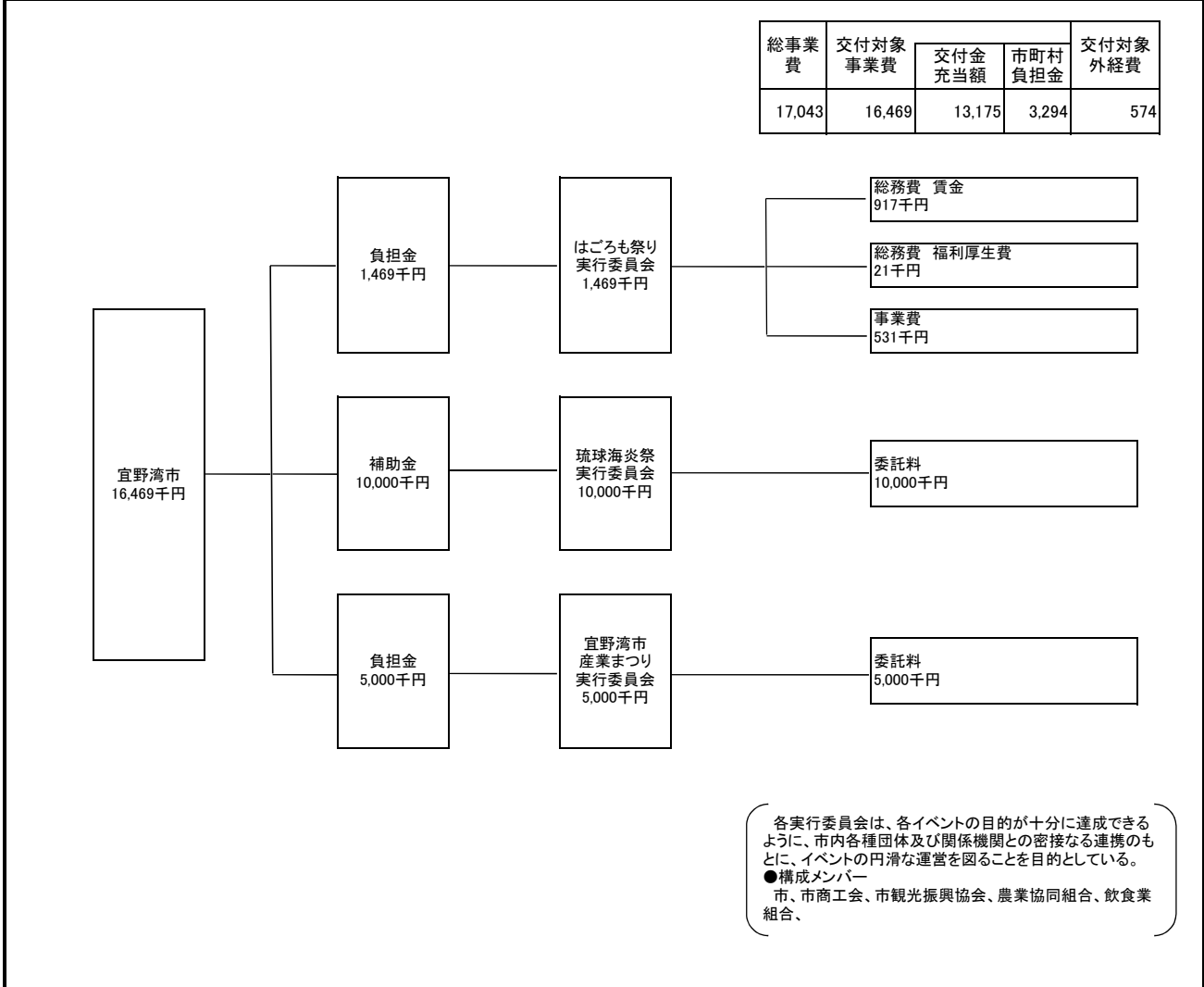


市町村名		宜野湾市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 宜野湾市西海岸エリア活性化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	市民経済部 観光スポーツ課		事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進
III-1-(1)		事業内容					
県外・海外からの観光誘客を推進するため、R4年度は「はごろも祭り・飛衣羽衣カチャーシー大会」、「産業まつり」、「琉球海炎祭」の開催を支援する。							
効果発現年度	■当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度) <input type="checkbox"/>						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(a) 当初予算額	17,053	16,303	33,201	20,053	29,053
	(b) 予算現額	4,434	16,303	3,400	3,000	16,469	
	(c) 増減額(b-a)	▲12,619	0	▲29,801	▲17,053	▲12,584	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	4,434	16,303	3,400	3,000	16,469	
	B. 執行済額	4,434	16,303	2,252	1,738	16,469	
	うち交付金充当額	3547	16,303	1,802	1,391	13,175	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	66.2%	57.9%	100.0%	
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・はごろも祭りは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催方針を変更し、花火大会として開催を予定していたが、強風により開催を中止した。しかし、祭り実行委員会の事務局がイベントに関わる事務処理を行う必要があるため、総務費(賃金、福利厚生費)などを支出した。</li> <li>・海炎祭は、新型コロナの影響により開催時期の変更に伴う大型企業が協賛しないことにより、当初5,000千円から、実行委員会から増額支援依頼のあった5,000千円(協賛金予定額の半額)を増額した。</li> <li>・産業まつりは、事業計画通りに予算執行がなされた。</li> </ul>					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	はごろも祭り・カチャーシー大会、琉球海炎祭、産業まつりへの支援		目標 (まつり等への支援)	(まつり等への支援)	(イベントへの支援)	(イベントへの支援)	
			実績	まつり等への支援	まつり等への支援	イベントへの支援	
			目標	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はごろも祭り・カチャーシー大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催方針を変更し花火大会の開催を予定していたが、強風により中止となった。</li> <li>・海炎祭は、新型コロナの影響により、開催時期を4月から7月へ変更したが、3年ぶりの宜野湾市での開催となった。</li> <li>・産業まつりは、農業協同組合、浦添・宜野湾漁業協同組合、宜野湾市商工会の協力の下、11月19日、20日の2日間開催。両日ともに宜野湾市の特産品である田芋を販売したが、短時間で売り切れるほど好評であった。また、3年ぶりに実施したヒーローオーラレーや魚つかみ取り、昨年度から実施したガラボン抽選会も大好評であった。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	琉球海炎祭…来場者数1.5万人(うち県外8千人、海外2千人)		目標		16,000人	(1.5万人)	( )
			実績		0万人	0万人	1.15万人
	はごろも祭り…来場者数16.8万人		目標	(14万人)	(16.5万人)	(16.5万人)	(16.8万人)
			実績		0万人	0万人	0万人
産業まつり…来場者数2.8万人		目標	(2.5万人)			(2.8万人)	
		実績		0万人	0万人	3万人	
海浜公園周辺宿泊施設宿泊者数についてコロナ過以前のH30年度実績とほぼ同等水準を目標とする。H30年度279,874人→目標280,000人		目標	( )	(288,500人)	(280,000人)	( )	
		実績		72,887人	69,155人	252,147人	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はごろも祭り・カチャーシー大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開催方針を変更し花火大会の開催を予定していたが、強風により中止。</li> <li>・琉球海炎祭は、新型コロナの影響により海外からの来場者がなく、県内外からの来場者のみとなったため、目標である1.5万人には達成しなかった。</li> <li>・産業まつりは、県の感染症拡大防止対策に基づき開催したが、市制60周年記念事業としてイベント内容も充実させたため、目標値を上回る3万人の来場者があった。</li> </ul>						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>●はごろも祭りについては、新型コロナウイルス感染拡大防止により開催方針を変更し、花火大会を予定したが強風により中止となった。</li> <li>●海炎祭については、コロナの影響により海外から来場ができなかったため、目標値を達成できなかった。</li> <li>●西海岸地域でのイベント開催については、共通事項として駐車場の確保が課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ過では、入場者数の制限や感染症防止対策を行った上での開催を検討していたが、今後は、対策方針も緩和され、制限なく開催し、海外からの観光客の誘客も見込まれるので、SNS等を活用して広く周知できるよう取り組んでいく。</li> <li>●近隣駐車場や商業施設等への協力を要請しながら引き続き、駐車場の確保に努めながら、公共交通機関の利用促進にも取り組んでいく。</li> </ul>
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS等を活用して、県外にも広く周知できるよう取り組んでいく。</li> <li>・近隣駐車場、商業施設等への協力要請を行い、駐車場スペースの確保に努める。また、公共交通機関の利用促進のため、イベント開催時の便の増等を、バスやタクシー会社等へ協力を呼び掛けていく。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



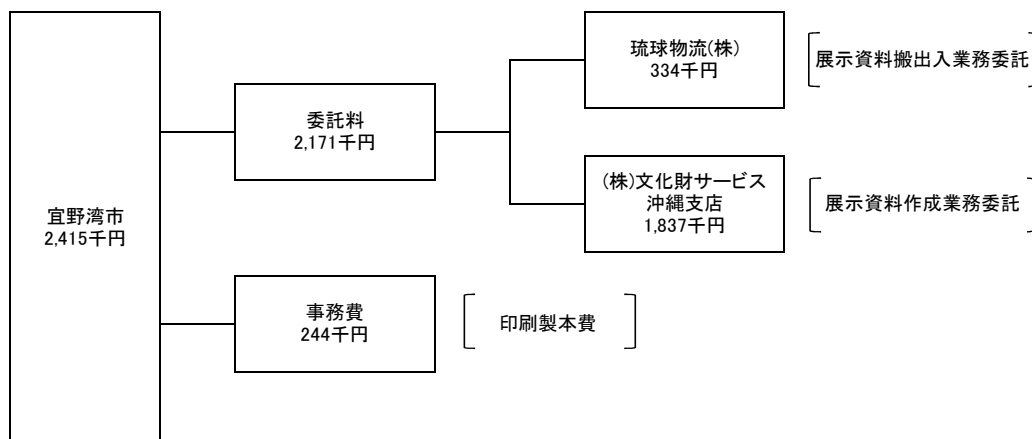
資金の用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先が、市内各種団体及び関係機関で構成される実行委員会となっているため、支出先は妥当と考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模については、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・費目・用途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要な支出と判断している。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	企画展開催事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ	
担当部署名	教育部 市立博物館	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	市民や観光客に宜野湾市への理解を深めてもらうため、普天間飛行場をとりまく歴史を中心に企画展を開催する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,544	3,312	3,761	3,679	2,757
		(b) 予算現額	3,437	3,312	3,167	3,598	2,428
		(c) 増減額(b-a)	▲107	0	▲594	▲81	▲329
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		3,437	3,312	3,167	3,598	2,428
	B. 執行済額		3,265	3,268	3,166	3,565	2,415
	うち交付金充当額		2,612	2,614	2,533	2,852	1,932
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.0%	98.7%	100.0%	99.1%	99.5%
予算の状況の説明		補正にて委託料の執行残額329千円を減額し、交付対象事業は概ね執行した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	企画展を開催:2本		目標 ( 2回 )	( 2回 )	( 2回 )	( 2回 )	
			実績 2回(交付金対象)	1回(交付金対象)	2回(交付金対象)	2回(交付金対象)	
		目標 ( )	( )	( )	( )		
		実績					
達成状況説明		交付金を活用した企画展は「山田真山展」と「市制施行60周年記念展」の2本を開催した。「山田真山展」では、山田真山や平和祈念像原型を中心に、アトリエ跡に残された各種資料や作品などを紹介し、真山の「美を通じた平和への思い」を知ってもらい、多くの人に平和について考えてもらうことができた。また、「市制施行60周年記念展」では、宜野湾村が「市」に昇格したころ(1960～1970年代)を中心に、主な出来事や街の様子などを紹介し、郷土への愛着心を育むきっかけを作ることができた。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)
	企画展1回あたりの平均入館者数: 1,470人以上		目標 ( )	( 1,470人 )	( 1,470人 )	( 1,470人 )	( )
			実績	1,526人/回	1,369人/回	1,490人/回	
			目標 ( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明		・令和4年度の総入館者数は19,319人で、そのうち企画展の入館者数は8,005人(うち、交付金に係る展示会については企画展示室入館者数の合計は2,981人)であった。 ・令和4年度はコロナ禍の影響が残りつつも、交付金に係る企画展の目標は達成することができた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・「山田真山展」では、宜野湾市内で平和祈念像原型を作成した山田真山の業績を紹介し、また「市制施行60周年記念展」では、かつての宜野湾の様子を伝えた。これらの展示をとおして、かつての様子を知っている世代と、新たに知る世代の様々な年齢層に参観を促したことで目標を達成することができた。</p> <p>・コロナ禍でも企画展に直接来ていただけるように衛生面に配慮し、換気やアルコール液の設置など感染拡大防止策を講じた。</p>	<p>・展示資料を見るだけでなく、触れることのできるレプリカ資料も展示し、来観者が各資料の持つ背景をよりイメージしやすいような展示内容を検討する。</p> <p>・コロナ禍の状況をみながら、引き続き、換気やアルコール液の設置をしつつ、コロナ禍以前の状況に戻した事業展開を試みる。</p>
	今後の取り組み方針	
<p>・交付金の委託料を活用して展示資料作成業務を行い、対象となる企画展に係る展示資料(レプリカ)を作成し、その資料を企画展にて展示する。</p> <p>・コロナ禍の状況を注視し、可能な範囲で入場制限や講座等の定員制限を緩和した取り組みを行う。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,415	2,415	1,932	483	0



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、①県内でも同種類・同規模の業務を確実に履行した実績があり、②沖縄・宜野湾市の歴史や文化の情報に精通していること、③資料の運搬について、資料の性格や状態を理解し、過去に同種類・同規模の実績を有することを重視して選定しており、妥当と考える。その結果、円滑に事業振興ができた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な額であり、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○使途については、企画展終了後も作成資料が歴史・文化の学習教材として、または観光PRIにも活用ができ、目的や金額は適正だと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市							
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-③	横浜DeNAベイスターズグリーンコミュニティ事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ア			
担当部署名	市民経済部観光スポーツ課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式/ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進 Ⅲ-1-(1)			
事業内容	プロ野球のキャンプは、温かい沖縄を全国にアピールする絶好の機会であり、横浜DeNAベイスターズのキャンプ地である宜野湾海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信し、観光・経済に大きな効果が期待できる。							
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,715	1,715	1,715	1,715	1,715	
		(b) 予算現額	1,715	1,715	1,457	1,715	1,715	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲258	0	0	
		(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)		1,715	1,715	1,457	1,715	1,715	
	B. 執行済額		1,321	1,554	1,457	1,715	1,715	
	うち交付金充当額		1,057	1,242	1,165	1,372	1,372	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		77.0%	90.6%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		当初予算額どおり、全額を執行することができた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	植樹する花の苗	目標	( 10,000鉢 )	( 10,000鉢 )	( 10,000鉢 )	( 10,000鉢 )		
		実績	15,000鉢 うち5,000鉢寄贈	15,000鉢 うち5,000鉢寄贈	15,000鉢 うち5,000鉢寄贈	15,570鉢 うち4,000鉢寄贈		
			目標	(            )	(            )	(            )	(            )	
		実績						
達成状況説明	・横浜DeNAベイスターズ宜野湾春季キャンプに伴い球団関係者や監督・選手並びに来場者を気持ちよく迎えるため、野球場を中心とした海浜公園を南国沖縄の花で埋め尽くし、美ら島沖縄を全国へ発信することを目的に宜野湾市はごろも緑化会の協力のもと、実施した。 ・令和5年1月21日に当イベントを実施。当日は晴天にも恵まれ、コロナ前と同様に少年野球チームを中心とした約700名以上のボランティアによって、花の植樹作業を実施することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	プロ野球キャンプ見学者の満足度	目標	(            )	( 80% )	( 80% )	( 80% )	(            )	
		実績		無観客のためアンケート実施できず	72%	65%		
	【参考指標】プロ野球キャンプ見学者数 目標値(令和元年度):26,000人 基準値(H24年度):22,300人		目標	( 22,300人 )	( 26,000人 )	( 26,000人 )	( 26,000人 )	(            )
			実績		0人	10,600人	29,160人	
進捗状況説明	プロ野球キャンプ見学者の満足度について80%の目標に対し65%に留まった。 【回答項目:会場の装飾について】 ①とても良い:38% ②良い:27% ③普通:31% ④良くない:4% ⑤とても良くない:0%							

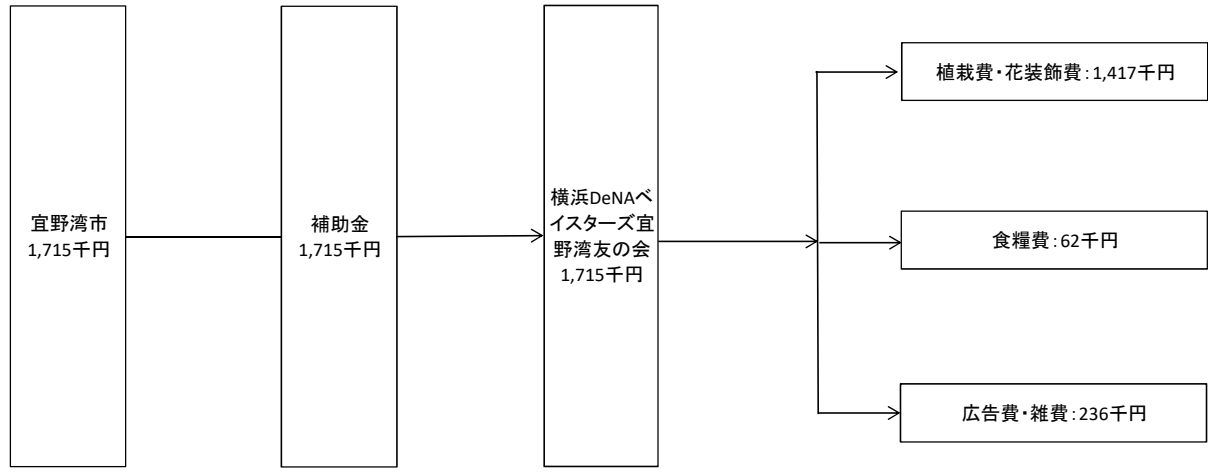
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年同様のキャンプガイドブックへの折込み(約500部)を行ったが、回答は26件にとどまった。</li> <li>・見学者は目標値の26,000人を上回る29,160人となり、コロナ前の賑わいを取り戻した。</li> <li>・花の苗の植樹後、間もなく、強風の影響により花の苗が一部枯れたり、未成熟の花の状況が見られた。それによって例年と比較し、花の装飾がうまくできない部分があり、来場者の満足度向上にうまくつながらなかったと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドブックへのアンケート折込みによる回答率は2年の実績で約2%強となっており、多くのアンケート回答数を得るためにアンケートの折込に加えて、対面でのアンケートの徴収などの検討が必要と考える。</li> <li>・アンケート内容を精査し、来場者の意見、要望を踏まえて会場装飾を検討する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・アンケート回答数を増やすためにガイドブック(の折込み)の配布を増やす必要がある。
- ・対面でのアンケート徴収について検討する。
- ・来場者からの意見を徴収し、会場装飾等の環境整備に係る要望に対応することで、来場者の満足度向上を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
1,715	1,715	1,372	343	



資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助の支出先として、横浜DeNAベイスターズ友の会はキャンプの受入れを行っている団体であり、補助の支出先として妥当であると考えている。 ○予算規模は事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。 ○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものであり、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市									
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	1-⑤	嘉数高台公園施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ						
担当部署名	建設部 施設管理課	事業実施(予定)年度	平成30~令和5年度	沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進						
事業内容	戦跡等もあり観光地としての側面もある嘉数高台公園において、来園者の利便性を図るため、公園施設を含めた再編整備工事を行った。										
効果発現年度	■当年度                      ■後年度(令和6年度)										
実施方法	■直接実施    □委託    □補助    □負担    □その他( )										
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	R2年度		R2年度(繰越)		R3年度		R3年度(繰越)		R4年度	
		(a) 当初予算額	180,704			190,688					41,906
		(b) 予算現額	180,704			190,688					41,906
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額			128,958	0	126,447	0			0
		A. 計(b+d)	180,704	128,958	190,688	126,447	41,906				
		B. 執行済額	51,746	115,239	64,241	125,233	42,449				
		うち交付金充当額	41,396	92,192	51,393	79,005	33,524				
		次年度繰越額	128,958		126,447	0	0				
		執行率(%) (B/A)	28.6%	89.4%	33.7%	99.0%	101.3%				
予算の状況の説明		嘉数高台公園再編整備において、再編整備工事(3期)(東屋)について、計画的な予算執行に努め、事業を遂行した。									
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況								
			R2年度		R3年度		R3年度(繰越)		R4年度		
	再編整備工事(3期)、(東屋)の実施		目標	嘉数高台公園施設整備工事(第1期)完了	目標	再編整備工事(2期)、(植栽)、(広場側トイレ・東屋)の実施	目標	( )	目標	再編整備工事(3期)、(東屋)の実施	
			実績	嘉数高台公園施設整備工事(第1期)繰越	実績	整備工事(第1期)完了(第2期)繰越	実績	再編整備工事(2期)、(植栽)、(広場側トイレ・東屋)の完了	実績	再編整備工事(3期)、(東屋)の完了	
			目標	( )	目標	( )	目標	( )	目標	( )	
			実績		実績		実績		実績		
達成状況説明		嘉数高台公園再編整備工事(3期)、(植栽)、(広場側トイレ・東屋)を完了した。									
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	目標値(R6年度)				
	再編整備工事(3期)、(東屋)の完了		目標	( )	目標	再編整備工事(2期)、(植栽)、(広場側トイレ・東屋)の完了	目標	再編整備工事(3期)(東屋)の完了			
			実績		実績	整備工事(第1期)完了(第2期)繰越	実績	再編整備工事(2期)、(植栽)、(広場側トイレ・東屋)の完了			
	戦跡等を活用した観光地としての利便性の向上が図られたか(80%以上)を含め、観光客や市民等へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標	( )	目標	( )	目標	( )			
			実績		実績		実績	(80%以上)			
	進捗状況説明		再編整備工事(3期)、(東屋)を完了した。								

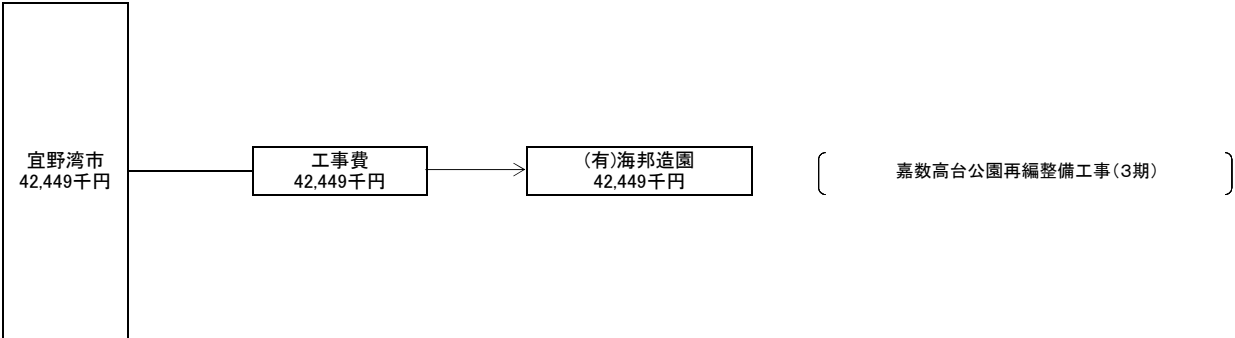
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・再編整備工事(3期)、(東屋)の完成後は、施設を開放することができたため、公園利便性の向上が図れた。今後は、目標達成のため、観光客及び公園利用者の増加へ向けた取組みが必要となる。</p>	<p>・再編工事による利便性の向上及び新たな施設整備等について、情報発信の強化により広報活動を行い、更なる公園利用者数の増に繋げる。</p>

**今後の取り組み方針**

・再編整備工事(3期)で完成した中腹園路及び植栽、展望台広場施設等についての周知及び4期工事の再編工事概要について、市の広報及びSNS等で情報発信を実施し、市民・観光客利用者の利便性の向上を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
42,449	42,449	33,524	8,925	



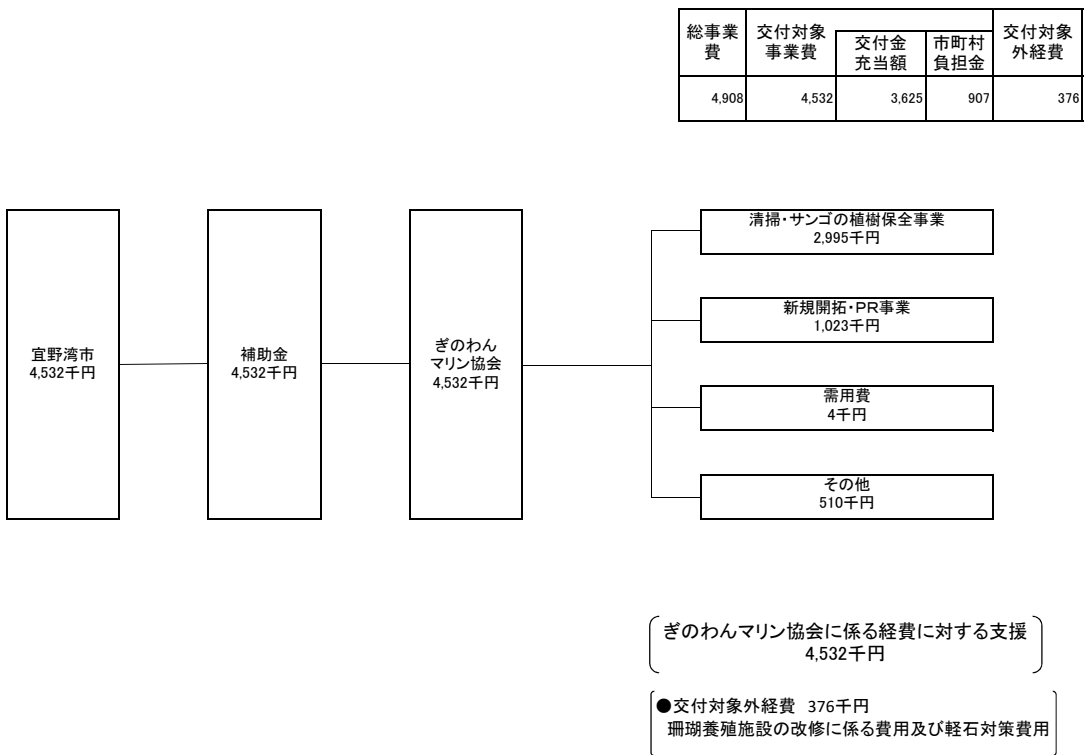
資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算は実績と見積から精算し、適正な規模と認識している。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、精算段階で検査・検収を実施しており、事業目的に即して適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	宜野湾市					
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>						
事業番号・事業名	1-⑦	ぎのわん美ら海クリーン活動支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-イ
担当部署名	市民経済部 観光スポーツ課	事業実施(予定)年度	令和3年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	SDGsに適応する観光ブランド力の強化 Ⅲ-1-(1)
事業内容	市観光振興協会を中心としたダイビング、マリン事業者等の組織体である「ぎのわんマリン協会」へ補助金を支出することで、マリン協会の活動であるサンゴの植樹、清掃活動を通して海の環境を保全すること、また観光コンテンツの開発、観光プロモーションなどを支援した。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )					
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	(a) 当初予算額	-	-	-	5,000	5,000
	(b) 予算現額	-	-	-	5,000	5,000
	(c) 増減額(b-a)	-	-	-	0	0
	(d) 繰越額	-	-	-		
	A. 計(b+d)	-	-	-	5,000	5,000
	B. 執行済額	-	-	-	4,992	4,532
	うち交付金充当額	-	-	-	3,993	3,625
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	-	-	-	99.8%	90.6%
予算の状況の説明	・ぎのわんマリン協会の主な事業が海域での作業となっており、海の天候により計画としていた事業が実施できていない部分もあったため、予算額5,000千円に対し、4,908千円の補助金を支出した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)	達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		目標	( - )	( - )	( りのわんマリン協会への支援 )	( りのわんマリン協会への支援 )
		実績			実施	実施
	目標	( - )	( - )	( )	( )	
	実績					
達成状況説明	・本市の海の観光資源を保全するために、海中清掃活動(3回)及びサンゴの植樹活動(100株)を実施した。 ・観光資源を保全しながら本市の新たな観光コンテンツを開発する活動を行う。 →関係団体と協力し、「海底熱成泡盛」の開発を開始する。					
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
		目標	( )	( )	( 200人 )	( )
		実績			542人	
		目標	( )	( )	( )	( )
	実績					
	進捗状況説明	・令和4年度は、新型コロナの影響も緩和され、観光客の増加傾向にある中、令和4年度の目標値(200人)を超える706人のダイビング観光客があった。ぎのわんマリン協会では、SNS等のPR活動も行いながら、今後、増加する観光客の受け入れに向け、宜野湾のシュノーケルポイントを活用した地域資源PR事業や、地元マリンショップを対象に宜野湾のダイビングポイント講習会を開催した。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な事業が海域での作業となっているため、天候によって計画的な事業が実施できない場合がある。</li> <li>・新型コロナに係る対策方針が緩和され、今後は県外から多くの観光客も見込まれているため、宜野湾の海の魅力を広く発信していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候による事業の延期も想定し、延期日程も考慮しつつ事業スケジュールを計画する必要がある。</li> <li>・宜野湾の海のポイントを記載した「ぎのわんマリンポイントマップ」を、広く周知できる取り組みが求められる。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節的な海の状況も考慮しながら、計画した事業が実行できるよう年間スケジュールの作成について、助言等を行っていく。</li> <li>・県内ダイビングショップやホテル事業者等との連携も促しながら、「ぎのわんマリンポイントマップ」の周知や、広報活動等への取り組みを支援していく。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助の支出先として、ぎのわんマリン協会は市観光振興協会を中心として、漁業協同組合、市ダイビング協会等で構成された団体であり、補助の支出先として妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものであり、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	スクールソーシャルワーカー活用事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(1)-ア	
担当部署名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	子どものライフステージに応じたつながる仕組みの構築及び県民運動の展開 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	スクールソーシャルワーカー等を配置して学校及び関係機関と連携し、課題を抱える児童生徒及びその保護者等に働きかけ青少年が抱える課題改善のため、支援活動を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(a) 当初予算額	29,834	30,174	36,225	31,513	35,114
		(b) 予算現額	29,434	28,358	35,527	30,185	31,642
		(c) 増減額(b-a)	▲ 400	▲ 1,816	▲ 698	▲ 1,328	▲ 3,472
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	29,434	28,358	35,527	30,185	31,642
		B. 執行済額	28,183	26,477	34,609	28,311	29,874
		うち交付金充当額	22,546	21,181	27,687	22,648	23,899
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	95.7%	93.4%	97.4%	93.8%	94.4%
予算の状況の説明		職員未配置期間にかかる報酬の補正減と執行残。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	・はごろも学習センター配置 SSWアドバイザー(1名) SSWコーディネーター(4名) ・小中学校配置 小学校SSW(9名)／中学校SSW(4名)	目標	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW17名	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW17名	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW12名	アドバイザー1名 (コーディネーター4名) SSW13名	
		実績	アドバイザー1名 コーディネーター5名 SSW17名	アドバイザー1名 コーディネーター4名 SSW18名	アドバイザー1名 コーディネーター4名 SSW14名	アドバイザー1名 コーディネーター4名 SSW13名	
	【参考指標】 課題を抱える児童生徒の支援数	目標	( 800人 )	( 739人 )	( 565人 )	( 565人 )	
		実績	739人	754人	489人	470人	
達成状況説明	年間を通した切れ目のない支援に取り組む必要があるため、通年を通したスクールソーシャルワーカーの任用と、全小中学校への配置を行い、学校生活に課題のある児童生徒・保護者の支援に取り組んだ。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	SSWの支援について、保護者等の満足度	目標	(    )	(    )	(    )	( 80%以上 )	(    )
		実績				89.80%	
	不登校児童生徒学校復帰率 ※算出方法 A「学校復帰、学級復帰、未然防止」に占めるB「学校復帰」の割合 例:R02年度 B:61件/A:195件=31.28%	目標	(    )	( 30%以上 )	( 30%以上 )	(    )	(    )
実績			31.28%	31.4%			
進捗状況説明	年間を通した研修により、SSWが対人援助について学んでいることで成果が維持できていると考えられる。						

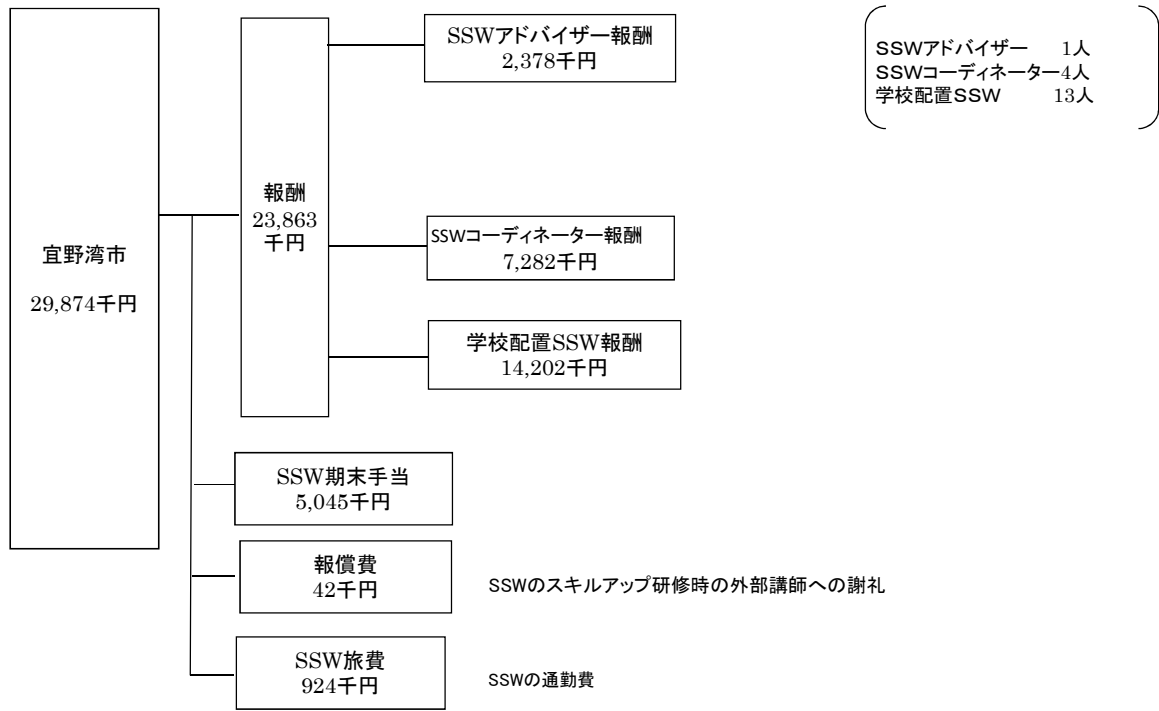
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>令和4年度も、2校に関してはSSWの確保ができず未配置の期間があったが、その他の学校については、年間を通してSSWを配置し、切れ目のない支援に努めた。その中で、夏休み期間中の居場所実施を計画し、2学期明けの登校渋り対策となるよう取り組んだ。</p>	<p>令和4年度もコロナ禍の影響を受けたが、年間を通してSSWの配置により、安心して支援に取り組めた。未配置の期間があったので、SSWの確保について取り組んでいく。</p> <p>夏休み期間中の居場所実施を効果的にするために、夏休みまでに支援対象者との関係性を作る機会を多く持つ必要がある。</p> <p>SSWが関わっている支援について、多くの課題が改善されているが、課題の改善への変化が見られないケースもあるので、改善に繋がるよう、児童、保護者、学校と連携を図りながら、課題の解決に向け取り組んでいく。</p>

**今後の取り組み方針**

- ・切れ目のない支援に取り組むため、通年でSSWを採用していく。
- ・継続して事業に取り組めるよう、SSWの採用について市のホームページやハローワークへの掲載依頼を行い人員の確保に努める。また、相談者が抱える様々な課題に対応できるよう定期的な研修会の開催や職員同士の情報共有の機会を設ける。
- ・1学期から対象者への声掛けや、家庭訪問等を通して関係性を築いていく。
- ・定期的な研修をととしてスキルアップを図り、課題の解決に取り組んでいく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
29,874	29,874	23,899	5,975	0



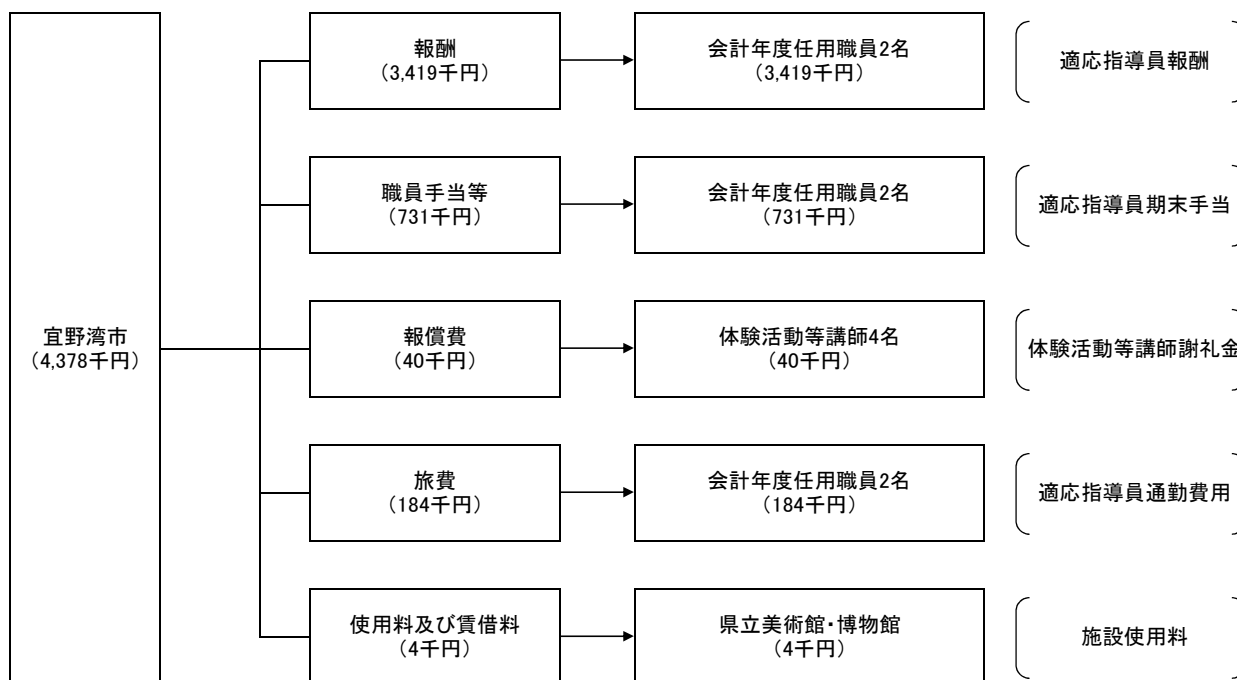
資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘察した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	適応指導教室事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ	
担当部署名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進		
事業内容	不登校児童生徒の適応指導に関わる調査研究、教育相談を実施し、児童生徒の居場所づくりとして、宿泊・自然体験学習活動及び他校との交流体験活動を実施するなど不登校児童生徒の学校適応を促進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	(a) 当初予算額	3,726	3,737	4,138	4,405	4,711
		(b) 予算現額	3,726	3,737	4,495	3,710	4,527
		(c) 増減額(b-a)	0	0	357	▲695	▲184
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	3,726	3,737	4,495	3,710	4,527	
	B. 執行済額	3,638	3,573	4,495	3,709	4,378	
	うち交付金充当額	2,900	2,858	3,595	2,967	3,502	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	97.6%	95.6%	100.0%	100.0%	96.7%	
予算の状況の説明	新型コロナウイルス感染症の流行状況及び入級児童生徒の心身の状況を勘案し、宿泊学習を取りやめたことなどにより、3月補正等で184千円を減額し、概ね計画通りに執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	適応指導教室支援児童生徒数:8名	目標	( 4名 )	( 8名 )	( 8名 )	( 8名 )	
		実績	5名	6名	4名	2名	
	目標	( )	( )	( )	( )		
	実績						
達成状況説明	令和4年度は適応指導教室に2名の児童生徒を受け入れた。コロナ禍のため、一部活動に制限がかけられたが、感染症拡大防止に配慮しながら、小集団での集団適応能力向上のため、多くの活動に取り組んだ。社会体験活動、制作体験活動、調理活動、毎週金曜日のスポーツ活動や勤労生産活動を随時実施した。 学習面においては、学習者用端末を活用したドリルでの学習や、原籍校職員による夏季休業中の「出前講座」を実施するなど原籍校教諭との関わりを持った。 支援系の臨床心理士と連携することで、見通しを持った計画的・組織的な支援計画のもとで支援が出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	適応指導教室に通級している児童生徒のうち学校復帰できた児童生徒の率 10%	目標	( )	( 20% )	( 10% )	( 10% )	( )
		実績		17%	0%	50%	
	目標	( )	( )	( )	( )	( )	
	実績						
進捗状況説明	学校復帰できた児童生徒が1名(50%)で目標達成となったが、正式入級が2名と少なかったため、高い達成率となっている。他の1名は今年度の途中からの入級ということもあり、安定した通級を促す支援に注力したため、結果として学校復帰には至らなかった。しかし、オンラインで学校行事(始・終業式等)に参加したり、合唱コンクール、修学旅行、遠足に参加したりするなど、年度当初と比べて学校復帰への意欲の向上がみられた。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>学校復帰を果たした児童については、適応指導教室でのこれまでの支援(様々な体験活動、学習支援等)の積み重ねと中学校進学というタイミングが重なり、学校復帰となった。一方で適応指導教室に入級する児童生徒は年度ごとに異なり、またそれぞれの特性や背景(不登校の要因、心身の発達、家庭環境等)も異なっているため、学校復帰への過程やかかる期間も様々である。そのため、児童生徒の心身の変化や家庭状況等の変化について、本人や関係者とのコミュニケーションを更に充実させる必要がある。</p>	<p>児童生徒一人ひとりに対し、適応指導教室での活動を含め、それぞれに合った関わり方や支援頻度、支援者連携を本人の状況に合わせて定期的に見直す。</p>
今後の取り組み方針		
<p>支援関係者それぞれの役割と連携方法を改めて確認し、児童生徒理解と支援充実を図るとともに、安定した登校(チャレンジ登校)の向上を図る。</p>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,378	4,378	3,502	876	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-③	児童生徒等相談事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(1)-ア			
担当部課名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	子どものライフステージに応じたつながる仕組みの構築及び県民運動の展開		
事業内容	臨床心理士、青少年教育相談指導員を配置し、相談等支援をとおして、不登校等の課題の改善に取り組む。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,682	10,680	12,626	12,626	14,250
		(b) 予算現額	9,882	10,680	14,462	11,920	13,584
		(c) 増減額(b-a)	▲ 800	0	1,836	▲ 706	▲ 666
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		9,882	10,680	14,462	11,920	13,584
	B. 執行済額		8,861	10,636	13,762	10,204	13,291
	うち交付金充当額		7,088	8,508	11,010	8,163	10,633
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		89.7%	99.6%	95.2%	85.6%	97.8%
予算の状況の説明		概ね当初予算額どおり、事業を執行した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	青少年教育相談指導員3名 臨床心理士配置2名		目標 ( 5名 )	( 5名 )	( 5名 )	( 5名 )	
			実績	5名	5名	6名	5名
	【参考指標】 相談受付件数 ①支援を行った不登校児童生徒数 ②支援を行った不登校以外を主訴とした子		目標 ( 150名 )	( 150名 )	( 150名 )	( 150名 )	
		実績	153名	176名	189名	214名	
達成状況説明		・年度を通して専門職の確保に努めた。 ・前年度に比べ、相談件数は増加している。 特に不登校の相談については、コロナ禍の影響が学校への行き渋りの増加が見られる。					
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	臨床心理士、青少年教育相談指導員の支援について、保護者等の満足度		目標 ( )	( )	( )	( 80%以上 )	( )
			実績			87.10%	
	相談受付数のうち「改善」(支援状況の結果学校復帰・進学就職・主訴解決)と判断した数値 ※センターへの通所の有無に限らず 【参考指標】 過去2年間の実績を参考に設定		目標 ( )	( 22% )	( 25% )	( 25% )	( )
			実績		26%	26%	18%
進捗状況説明		成果目標値を達成できた。 参考指標については昨年度より相談件数が増え、中学3年生が卒業後も相談を希望し継続となったため、目標値に達しなかった。 不登校が続き、登校のハードルが上がっている児童生徒には、学校と連携し、放課後児童生徒が少なくなった時間を見計らって、校内に入ってみたり、運動場や図書室等まで行ってみたりと、小さな体験を積み上げて自信につながるよう取り組んでいる。					

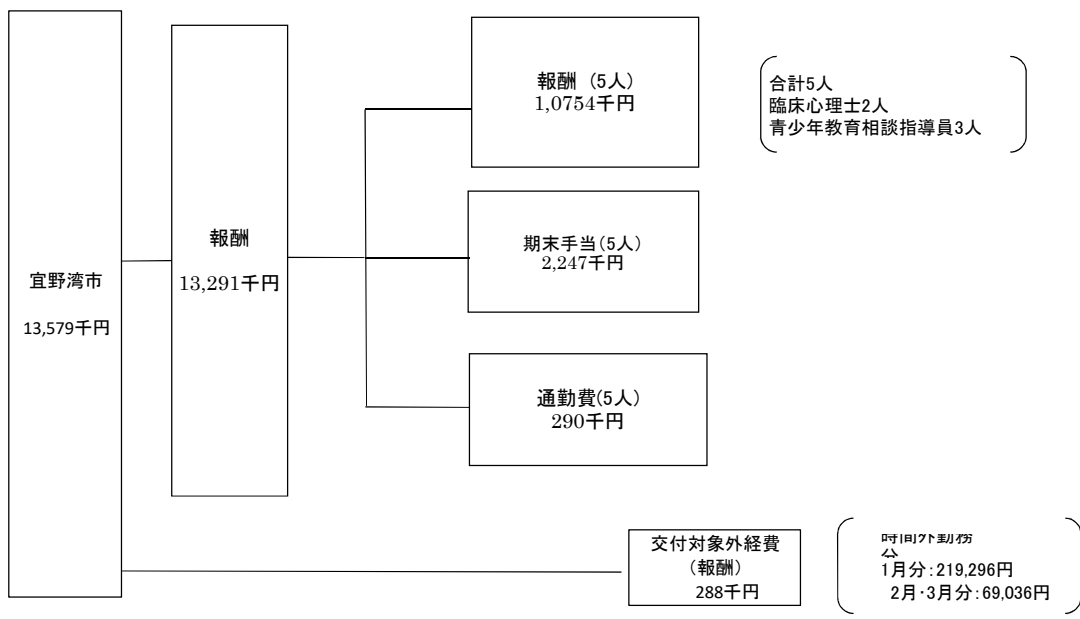
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・相談件数の増加の一つに、コロナ感染症による自粛や休校から在宅の時間が増えたことがきっかけで、スマホ等でゲームを行う時間が長時間となり、生活リズムが乱れ、昼夜逆転しているケースが見受けられる。	・アンケートの分析を行い、より相談者により寄り添った支援ができるよう取組んでいく。

**今後の取り組み方針**

・今後も、臨床心理士による支援の見立てを元に、相談者のニーズに応じた支援に繋がるよう、学校や関係機関との連携に努める。  
 ・支援が中断することなく継続して取り組めるよう対策を講じる。  
 ・保護者と連携し、生活リズムを整えられるような来所相談のスケジュールを組んだり、来所相談の中でゲーム以外の楽しさも感じられるような体験ほか、校内での本人の成功体験が積み上げられるような環境づくりに取組む。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,579	13,291	10,633	2,658	288



資金の流 れ、費目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
○		支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
○		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
—		受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
○		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	宜野湾市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-④	非行防止等巡回活動事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(2)-イ		
担当部課名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	子ども・若者の育成支援 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	街頭指導員を委嘱し、夜間街頭指導等を実施して、青少年が問題行動に向かう初期の段階で必要な注意、助言、指導を行い、問題行動の未然防止等青少年の健全育成に寄与する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,960	1,960	1,960	1,876	1,890
		(b)予算現額	1,960	1,960	1,425	1,876	1,403
		(c)増減額(b-a)	0	0	▲535	0	▲487
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		1,960	1,960	1,425	1,876	1,403
	B. 執行済額		1,677	1,834	1,064	889	1,295
	うち交付金充当額		1,341	1,467	851	711	1,036
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		85.6%	93.6%	74.7%	47.4%	92.3%
予算の状況の説明		令和4年度もコロナ禍の影響により、巡回を中断していた時期があったため、街頭指導回数(予定)135回一(実績)111回(82%)の実施率だったため、補正減及び執行残が生じた。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	週3回の夜間街頭指導	目標	132回	136回	134回	135回	
		実績	128回	87回	69回	111回	
	街頭指導員配置数	目標	16名	16名	16名	16名	
		実績	16名	16名	16名	20名	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年通り各中校区から4人を委嘱し、夜間巡回指導を市内の公園を中心に4人1グループの4班体制で週3回実施。</li> <li>・令和4年度も、コロナ感染症対策のため、車内の飛沫感染対策や消毒の実施、マスクの着用等に努めつつ、蔓延防止期間等においては止む無く一部事業を中止した。</li> <li>・巡回数自体が減っているため、全体の声掛け数も減少しているが、巡回1回当たりの声掛け数は減少していなかった。</li> </ul>						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	夜間街頭指導件数 (前年度実績の12%減)	目標	(      )	(      )	(      )	( 前年度実績の12%減 )	(      )
		実績	/	/	/	対前年比36%増(370件)	/
	街頭指導員による声掛け指導件数	目標	(      )	( 435件 )	( 495件 )	(      )	(      )
		実績	/	231件	273件	/	/
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、可能な限りのコロナ感染症対策を実施しながら街頭指導に努めた。</li> <li>・前年度に比べ街頭指導の件数が増えたことに比例して、夜間街頭指導件数が増えている。(対前年比36%増)</li> </ul>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・夜間街頭指導件数は前年度に比べ増えている。 ・巡回活動の増加、青少年の深夜徘徊が減少していないことが要因してと考えられる。 ・教職員の働き方改革に伴い、ボランティアで街頭活動に参加していた職員の参加控えの意見等もある中、青少年の深夜はいかがが減少していない状況から、より一層、街頭指導員による定期的な街頭指導が重要と考えられる。	学校には、近隣住民から子どもたちが夜集まっている場所等の報告があるため、学校と情報共有することで効率的な巡回に努める。
今後の取り組み方針		
街頭指導の重要性がより増しているため、地域と連携はかりながら情報収集をはかり、夜間子ども達が多く集まる公園等を重点的に、非行に繋がる深夜徘徊の抑止力となるよう夜間巡回に取り組む。		

資金の流れ											
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,375</td> <td>1,295</td> <td>1,036</td> <td>259</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,375	1,295	1,036	259	80
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費							
1,375	1,295	1,036	259	80							
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明								
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。								
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。								
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。								
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。									

市町村名	宜野湾市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-⑤	学習支援員活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア		
担当部署名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育の充実 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	学習に遅れをとっている児童・生徒が自ら学ぶ意欲を高め、小学校において国語と算数、中学校において数学の基本的な学習内容を理解するため、授業内容をきめ細かにサポートする学習支援員を配置する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	23,718	23,718	26,547	27,494	24,920	
	(b) 予算現額	23,718	22,620	33,563	25,396	21,918	
	(c) 増減額(b-a)	0	△ 1,098	7,016	△ 2,098	△ 3,002	
	(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)	23,718	22,620	33,563	25,396	21,918	
	B. 執行済額	23,668	19,983	27,987	24,109	20,491	
	うち交付金充当額	18,934	15,986	22,389	19,287	16,393	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	99.8%	88.3%	83.4%	94.9%	93.5%	
予算の状況の説明	小中学校13校中4校に1月時点で退職者が出てしまい1校は配置できたが、残り3校が未配置であったための残。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	学習支援員の配置:13校13人 小学校9人・中学校4人		目標 ( 13校13名 )	( 13校13名 )	( 13校13名 )	( 13校13名 )	
			実績	13校13名	13校13名	13校13名	
			目標	(                    )	(                    )	(                    )	
		実績					
達成状況説明	年度途中で退職者が出て補充できなかった期間が出てしまった学校があったが、基本的には全校配置することができた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差(小学校) 算数:+2.0ポイント以上(中学校) ポイント以上			県と本市との平均正答率の差(小学校) 国語:+2.2ポイント以上算数:+2.0ポイント以上(中学校) 数学:-1.7ポイント以上	県と本市との平均正答率の差(小学校) 算数:+2.0ポイント以上(中学校) 数学:-1.7ポイント以上	県と本市との平均正答率の差(小学校) 算数:+2.0ポイント以上(中学校) 数学:-6ポイント以上	
			目標	(                    )	(                    )	(                    )	(                    )
			実績	県学力到達度調査(小学校) 国語:+2.3ポイント 算数:+1.2ポイント(中学校) 数学:-1.3ポイント	県学力到達度調査(小学校) 算数:+0.5ポイント(中学校) 数学:-0.5ポイント	県学力到達度調査(小学校) 算数:+1.4ポイント(中学校) 数学:-0.8ポイント	
			目標	(                    )	(                    )	(                    )	(                    )
		実績					
進捗状況説明	・県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差が、小学校算数+1.4ポイント、中学校数学:-0.8ポイントであった。 ・小学校の算数においては目標指数に迫ることができなかったが、中学校(数学)においては目標指数を越えることができ、昨年よりポイント数は下がったものの県平均との差が縮まってきている。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、県学力到達度調査の結果を分析し、今後の授業改善の取組に生かす必要がある。</li> <li>・小学校においては算数が県平均以上の学力はあるが、単元や項目によって苦手分野があり課題である。</li> <li>・各小中学校において、学校間差や学級間差が見られるなど、市全体での授業スタイルを統一し、各間差をなくす取組を今後も継続して推進していく必要がある。</li> <li>・家庭教育力の低下に加え、教師の人材不足等、学校を取り巻く環境が大きく変化してきているのが懸念材料である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力到達度調査の結果分析による実態把握及び本市の各種学力調査の成果と課題について徹底した分析を行う必要がある。</li> <li>・幼小中連携事業を通して、幼小中学校が共通の課題を認識し、学びの連続性の確立が必要である。</li> <li>・目標指数にはまだ及んでいない教科については、学級間差の課題が一番大きい要因である。今後、学年主任や教科主任等、ミドルリーダーの育成をさらに充実させ、課題解決につながるよう、校長会や教頭会、担当者会、学校訪問を通して支援していく。</li> </ul>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援員の指導技術を向上させるため、年2回の研修会を計画的に実施し、各学校において効果的に学習支援ができるよう研修会の充実を図る。</li> <li>・小学校での成果を中学校へ引き継ぐこと「学びのたすき」や中学校での生徒の課題を小学校教師が把握するなど、小中連携を推進し、課題である間差を縮める取組を継続実施する。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	20,491	20,491	16,393	4,098	
<pre> graph LR     A[宜野湾市 20,491千円] --&gt; B[学習支援員 13名 (小中学校各1名配置)]     B --&gt; C[報酬 17,558千円]     B --&gt; D[職員手当等(期末手当) 2,546千円]     B --&gt; E[旅費 387千円]           </pre>					
資金の 用途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点検項目		評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名	宜野湾市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑥	派遣費補助金交付事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ウ		
担当部署名	指導部 学務課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	児童・生徒の文化活動及びスポーツを奨励するため、学校教育の一環として県外に派遣される場合に要する旅費等を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	(a) 当初予算額	4,026	2,667	2,358	1,430	984
		(b) 予算現額	1,102	551	118	1,032	984
		(c) 増減額(b-a)	▲2,924	▲2,116	▲2,240	▲398	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	1,102	551	118	1,032	984	
	B. 執行済額	1102	217	118	1,032	984	
	うち交付金充当額	881	174	94	825	787	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	39.4%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	当初予算どおり執行することができた。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)	達成状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	県外派遣された団体への支援を実施	目標	( 団体への支援 )	( 団体への支援 )	( 団体への支援 )	( 団体への支援 )	
		実績	団体への支援を実施した	団体への支援を実施した	団体への支援を実施した	団体への支援を実施した	
	支援団体数:14団体 (文化活動団体数:2団体、スポーツ活動団体数:12団体)	目標	文化活動団体数:5団体 スポーツ活動団体数:10団体	文化活動団体数:5団体 スポーツ活動団体数:10団体	文化活動団体数:4団体 スポーツ活動団体数:9団体	文化活動団体数:2団体 スポーツ活動団体数:12団体	
実績		文化活動団体数:2団体 スポーツ活動団体数:13団体	文化活動団体数:0団体 スポーツ活動団体数:10団体	文化活動団体数:1団体 スポーツ活動団体数:11団体	文化活動団体数:1団体 スポーツ活動団体数:7団体		
達成状況説明	文化活動団体1団体、スポーツ活動団体7団体へ支援を実施できた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	アンケート調査において、対象児童生徒の視野が広がったとの回答【80%】	目標	(    )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	(    )
		実績	/	100%	100%	96%	/
	【参考指標】 支援団体数	目標	(    )	( 15団体 )	( 13団体 )	( 14団体 )	(    )
		実績	/	1団体	12団体	8団体	/
進捗状況説明	アンケート調査の結果、「視野が広がったか」の問いに対し、参加人数57人中55人(96%)が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した。(そう思う:55人)						

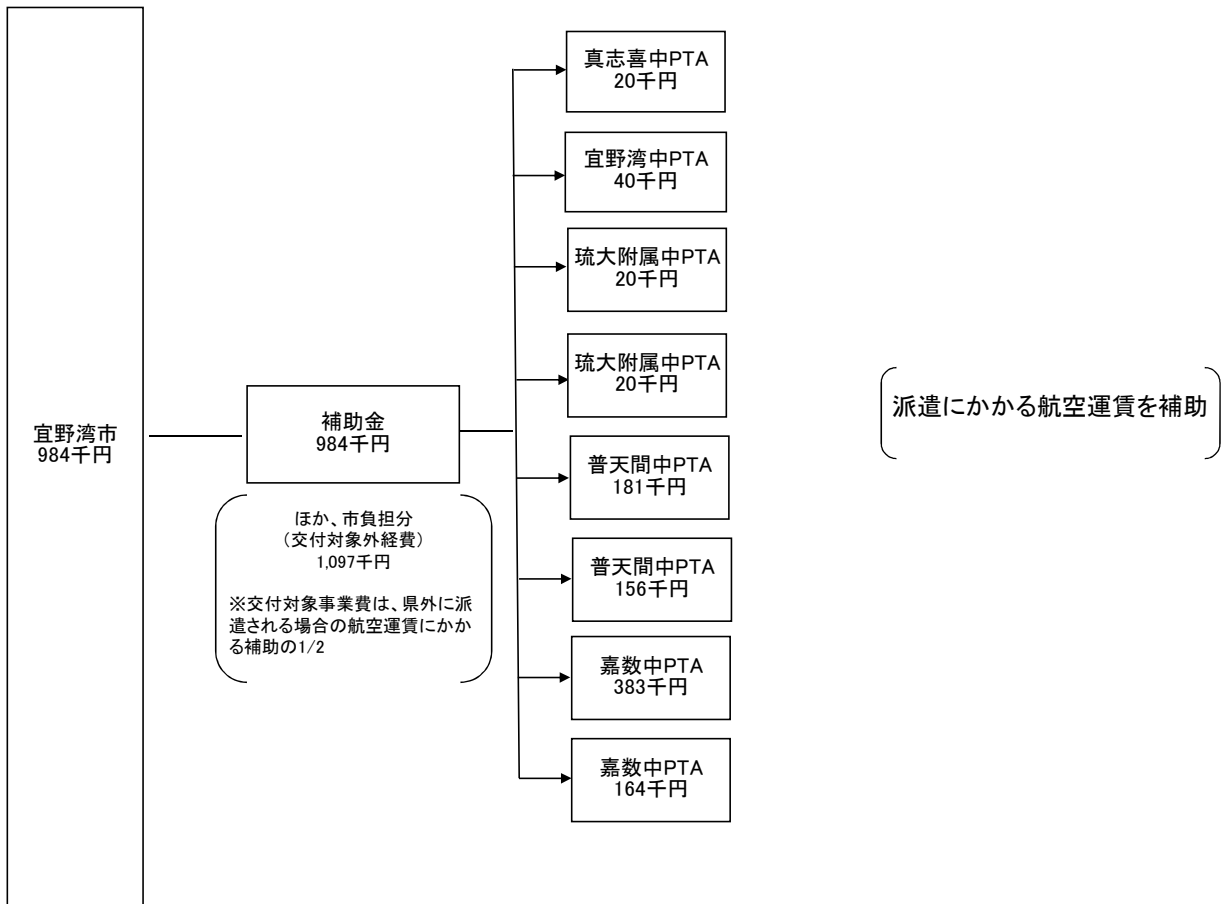
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・PTA関係者からの要望を踏まえ、補助対象となる大会の拡充と補助回数の制限を撤廃したことにより、より多くの児童生徒の貴重な体験することで視野を広げる機会を設けることができた。 ・「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」という意識の下、スポーツ・文化活動を地域クラブへ移行する取組が令和5年度から始まり、中体連へのクラブチームの参加が可能となるのでその把握が課題となる。	地域移行のクラブチームの把握をし、速やかに周知を行い、事業の推進を図る。

**今後の取り組み方針**

地域移行されたクラブチームの情報収集を関係団体へ回り、本事業の周知と手続きを方法を案内する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,081	984	787	197	1,097



資金の流し、費目・用途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先はPTAであり、PTAが学校と連携を取りながら手続きを行っているため、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○支援団体へ事前調査を実施し、適正な規模となるよう調整した。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○市(教育委員会)で定める要綱に基づき補助額を決定しているため受益者との負担関係は妥当であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、用途については交付申請前の大会要項の確認、実績報告の内容を精査した上で交付決定を行っているため適正である。

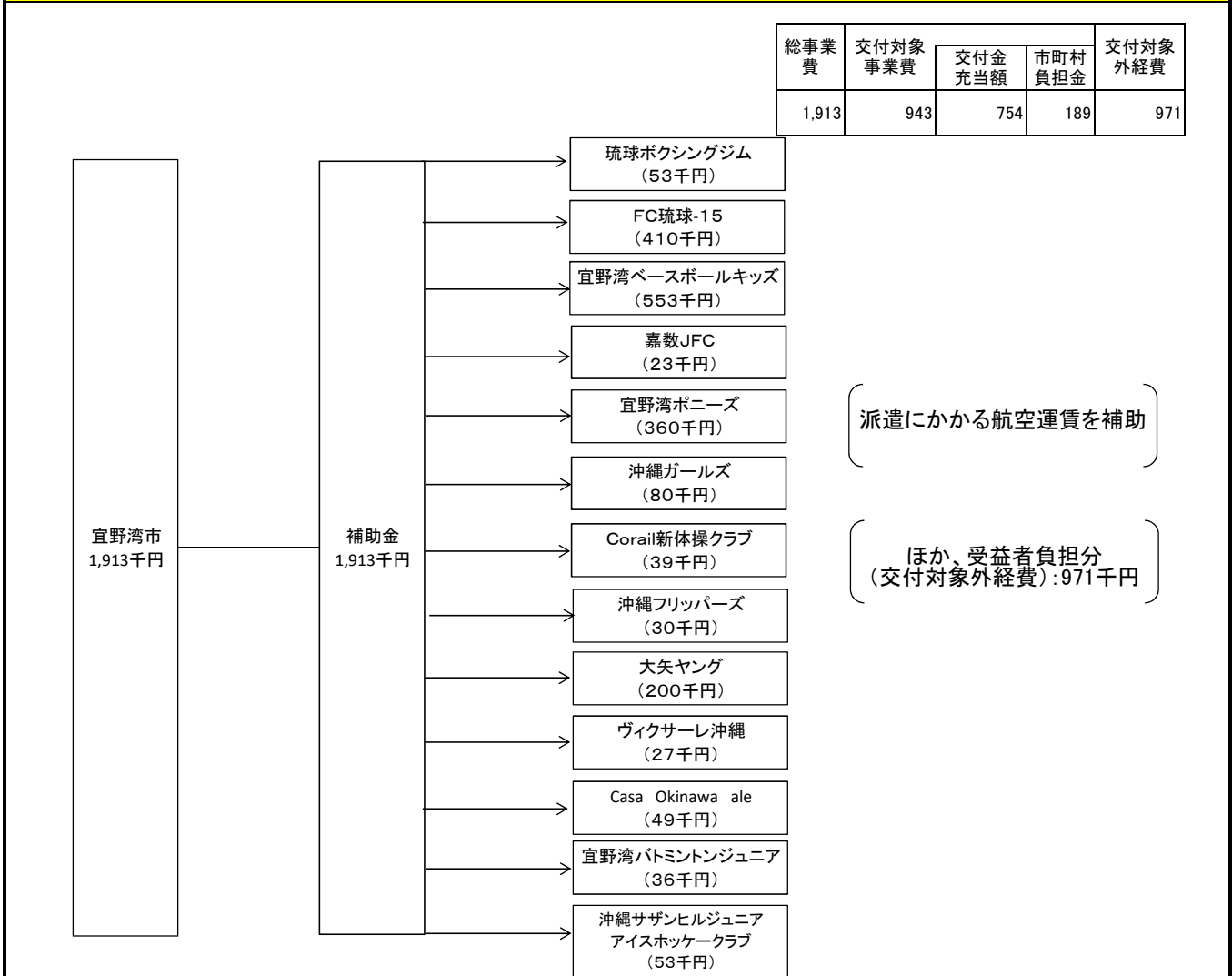
市町村名	宜野湾市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-⑦	スポーツ少年団派遣費補助事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ウ		
担当部署名	市民経済部観光スポーツ課	事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	個性を伸ばし、自立に向けた資質・能力を伸ばす教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	スポーツ活動による児童・生徒の健全育成を図るため、スポーツ少年団等の県外派遣を支援する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
<b>予算額・執行額【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		2,167	2,261	1,130	1,130	1,324
			2,167	2,261	1,130	1,621	1,324
			0	0	0	491	0
		B. 執行済額	704	1,130	541	919	942
		うち交付金充当額	563	904	432	735	754
		次年度繰越額					
		執行率(%) (B/A)	32.5%	50.0%	47.9%	56.7%	71.1%
		予算の状況の説明	コロナの影響が若干和らぎ、大会の開催、派遣実績も増え、事業費は7割の執行率となった。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	県外へ派遣された団体への支援を実施する(支援人数:86人)	目標	( 派遣補助 )	( 派遣補助 )	( 派遣補助 )	( 派遣補助 )	
		実績	派遣補助実施	派遣補助実施	派遣補助実施	派遣補助実施	
		目標	(            )	(            )	(            )	(            )	
	実績						
	達成状況説明	・コロナ拡大防止のため大会実施についての制限や交付決定後にコロナ罹患のため、大会出場を辞退したケースなどがあつたことにより令和4年度の派遣費補助実績は54人となった。					
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	【成果目標】アンケート調査において、「対象児童生徒の視野が広がった」の回答:80%以上	目標	(            )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	(            )
		実績		97%	100%	100%	
		目標	(            )	(            )	(            )	(            )	(            )
		実績					
	進捗状況説明	・成果目標である児童生徒並びにその保護者を対象にアンケート調査を実施し、調査の結果「視野が広がったか」との問いに対し、「そう思う」の割合が100%であった(参考:アンケート回答数54件中、「そう思う」が54件(100%)であった)。 ・当初の目標通り、児童生徒の県外派遣補助金を交付することにより、市内の児童生徒の県外への派遣が推進され児童生徒の健全育成を図ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ少年団派遣費補助として実施しているが、今後、部活動の地域移行に伴い、スポーツ少年団に加入していないクラブチーム・団体が増える可能性がある。</li> <li>・部活動の地域移行が進み、新たなクラブチーム・団体が増加することで、子どもたちの活動の場も多様化していくことが見込まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ活動による児童・生徒の健全育成を推進するため、現在のスポーツ少年団に加入していないチーム・団体への補助金の支出について検討する。</li> <li>・スポーツ少年団の基本理念である「子供たちのスポーツを通じた健全育成」を図るため、これまでより一層、スポーツ少年団への加入促進を行い、各クラブチームの指導者の育成等を図りながら、スポーツ少年団の指導・監督を行える体制を構築できるよう検討する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

スポーツ少年団に加入していないチーム・団体への補助金支出に向けて要綱の改正を検討しつつ、関係機関と連携を図りながらスポーツ少年団への加入促進やスポーツ少年団の指導・監督体制の強化を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種競技において県代表など優秀な成績を収めた団体から実績等を提出させ、内容を精査した上、補助金交付決定を行っているため、適正であった。</li> <li>○予算規模は過年度における予算額の最高額を参考に計上。</li> <li>○宜野湾市スポーツ少年団県外等派遣に関する補助金交付要綱に基づき補助額を決定しており、受益者との負担関係は妥当と考える。</li> <li>○費目・用途については支出に係る書類等を確認後、交付額の確定を行っており、適正であった。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	宜野湾市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	2-⑧	特別支援教育支援員派遣事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ウ 公平な教育機会の確保と学習環境の充実			
担当部課名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成28～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-3-(1)		
事業内容	特別に支援を要する幼稚園、小学校、中学校の幼児児童生徒に対し、特別支援教育支援員を派遣し、臨床心理士やコーディネーターと連携した支援体制の充実を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	82,504	82,476	106,948	99,494	105,009
		(b) 予算現額	76,139	75,964	94,487	90,585	92,075
		(c) 増減額(b-a)	△ 6,365	△ 6,512	△ 12,461	△ 8,909	△ 12,934
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		76,139	75,964	94,487	90,585	92,075
	B. 執行済額		69355	69946	91562	86691	90509
	うち交付金充当額		55483	55956	73249	69352	72407
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		91.1%	92.1%	96.9%	95.7%	98.3%
予算の状況の説明		予算減については、年度当初の未配置等による残が生じたため減額変更をおこなった。予算執行については、年度途中からは目標どおりの任用ができて適正に執行できた。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	特別支援教育支援員派遣 (幼稚園:10人、小学校46人、中学校16人)		目標 ( 80名 )	( 77名 )	( 77名 )	( 72名 )	
			実績	71名	74名	72名	
			目標 (      )	(      )	(      )	(      )	
			実績				
達成状況説明	配置人数については、目標通り達成でき、支援の必要性に応じ適切に配置できた。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	保護者と支援員を活用する学校側が満足したと回答した割合。		目標 (      )	( 80% )	( 95% )	( 95% )	(      )
			実績	89%	87%	95.60%	
	【参考指標】 令和4年度から、アンケート項目に「支援対象児の変容」に関する項目を入れ、保護者と学校側から良い変容が見られたと回答した割合。		目標 (      )	(      )	(      )	( 88% )	(      )
			実績			85.60%	
	進捗状況説明	満足度の割合が、目標の95%に達し、大多数の保護者や学校側は満足していると考えられる。参考指標として、「対象児童の変容」の項目に対し、学校での様子がわからないという保護者がおり、7%の保護者が無回答であった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校からの特別支援教育支援員派遣申請により、特別支援教育支援員を配置している。派遣申請は平成30年度510件、平成31年度654件、令和2年度754件、令和3年度854件、令和4年度は949件となっており、派遣申請件数は年々増加している。学校現場の状況から支援員72名の配置予定に対し、最大72名を配置した(延べ79名)。年間を通して、安定的な支援員の確保に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を要する幼児児童生徒の人数が年々増加しているが、特別支援教育支援員の数も限られているため、更なる効率的な活用に努める。</li> <li>特別支援教育支援員へアンケートを行い、雇用継続へつなげていく。</li> <li>子ども一人一人の教育的ニーズに合った支援をするためには、教職員や支援員の資質向上を図る必要がある。そのために研修会の内容を適宜工夫し、特別支援への理解を深められるよう継続して行う。</li> <li>特別支援教育コーディネーターや担任との共通理解を図ることが重要であるため、園や各学校で情報交換を密に行う。</li> </ul>
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育支援員の安定的な人材を確保するため、ホームページや職安等を活用して求人募集を行う。</li> <li>特別支援教育支援員の資質向上を図っていくために、研修会の内容を工夫し、継続して行う。</li> <li>特別支援教育の充実を図るため、今後も継続して学校や関係機関、保護者と連携を図る。</li> </ul>		

資金の流れ											
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>交付金充当額</th> <th>市町村負担金</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90,509</td> <td>90,509</td> <td>72,407</td> <td>18,102</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	90,509	90,509	72,407	18,102	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費							
90,509	90,509	72,407	18,102								
	<pre> graph LR     A[宜野湾市 90,509千円] --&gt; B[報酬 75,696千円]     A --&gt; C[期末手当 12,978千円]     A --&gt; D[通勤手当 1,835千円]     B --&gt; E[コーディネーター1名 臨床心理士1名]     C --&gt; E     D --&gt; E     E --&gt; F[特別支援教育支援員 派遣延べ名数: 幼稚園10名 小学校50名 中学校16名]           </pre>										
資金の 用途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明								
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。								
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。								
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。								
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。									

市町村名		宜野湾市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3	歴史公文書等整理・活用事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア	
担当部署名	教育部 市立博物館	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及	
事業内容	市立博物館が所蔵する写真資料や歴史公文書等を整理し、公開基準に沿って順次、公開を行う。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	■直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	23,121	22,502	21,941	24,142	14,460	
	(b) 予算現額	22,915	22,294	21,905	23,272	13,660	
	(c) 増減額(b-a)	▲206	▲208	▲36	▲870	▲800	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	22,915	22,294	21,905	23,272	13,660	
	B. 執行済額	22,812	22,167	21,905	23,271	13,660	
	うち交付金充当額	18,249	17,835	17,524	18,617	10,928	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.6%	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	補正にて会計年度任用職員に係る給与等及び委託料の執行残額797千円を減額し、交付対象事業は概ね執行した。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
	公開基準に基づいた歴史公文書の公開。	目標	( 公文書の 一部公開 )	( 公文書の 一部公開 )	( 公文書の 一部公開 )	( 公文書の 一部公開 )	
		実績	歴史公文書利用を周知するコンテンツを作成し、一部を公開した	歴史公文書の一部を公開した	歴史公文書の一部を公開した	歴史公文書の一部を公開した	
	デジタル化済み写真データの情報入力及び情報入力が済んだ写真データの公開。	目標	( )	( )	( )	( 写真データの 情報入力及び 一部公開 )	
		実績				写真データの情報入力をし、一部を公開した	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開基準に則って、個人情報などのマスキング処理を施した歴史公文書資料を順次公開した。令和4年度は15冊を公開し、公開件数は合計36冊となった。</li> <li>これまでに、デジタル化及び情報入力を済ませた写真資料588点の公開を行った。</li> </ul>						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値 (年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (年度)	
	アンケートを実施し、市の歴史や文化への理解が深まった方の割合が80%以上とする。	目標	( )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( )
		実績		100%	100%	100%	
		目標	( )	( )	( )	( )	( )
		実績					
進捗状況説明	資料利用者へアンケートを実施し、36件中回収した27件のアンケート結果において、5段階評価ですべてが5であったことから、「市の歴史や文化への理解が深まった」という割合は100%となった。「市の歴史や文化への理解が深まった」評価を4以上とした。						

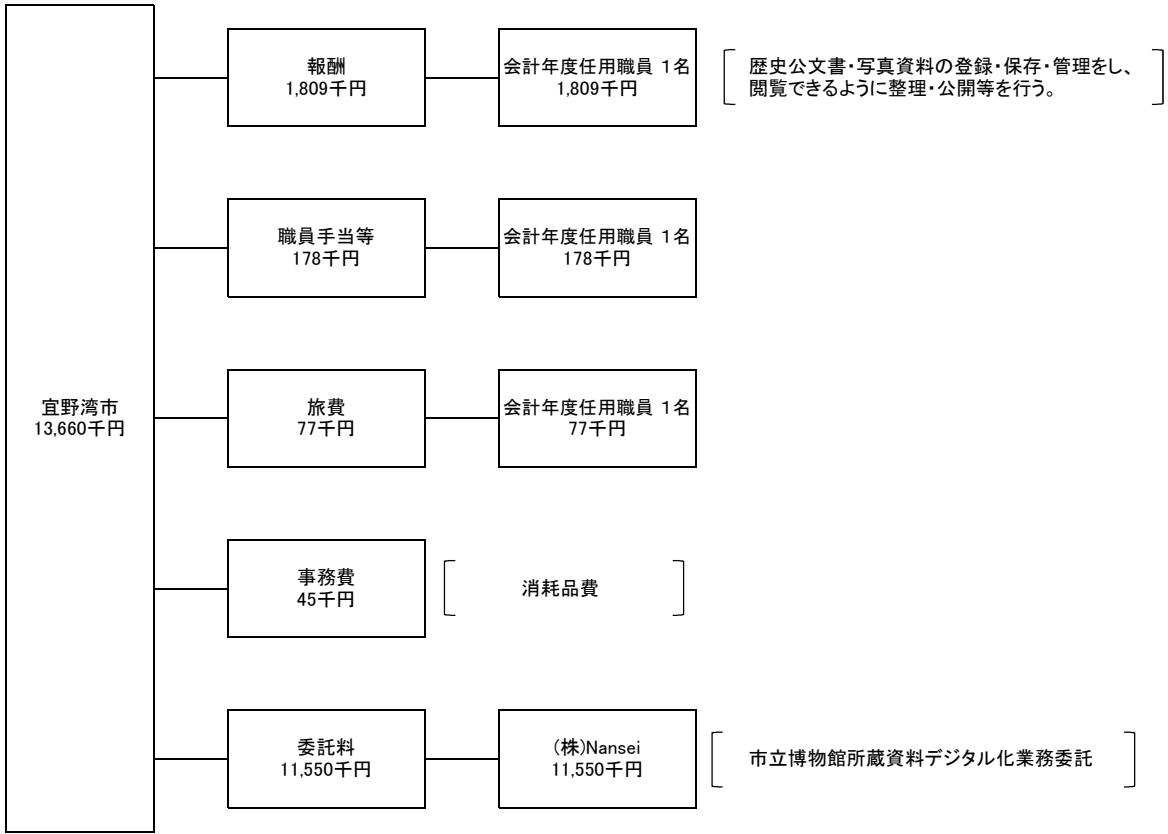
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度に比べ、資料貸出の認知度が高まってきており、資料の利用者数及びアンケートの回答数が増加したことが成果目標を達成した要因と考えられる。</li> <li>一方で、アンケートの回収率は伸び悩んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、資料の利用者数をさらに増やす必要があり、そのためには歴史公文書や写真資料など公開資料の増加を図る必要がある。</li> <li>アンケートの回収率を高めるために、資料の提供前や提供後にアンケートへの協力を依頼する。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・歴史公文書及び写真資料などの公開件数を順次増やすために、歴史公文書に記載されている個人情報等のマスキング処理や、写真資料の被写体に係る情報入力等を継続して進めていく。  
 ・アンケート未提出者については、連絡をするなど提出していただくように促す取り組みを行う。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
13,660	13,660	10,928	2,732	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札によって落札者と契約しており、妥当であると考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な額であり、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的の達成の観点から必要なものなのか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	平和市民啓発事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(1)-イ		
担当部署名	市民経済部 市民協働課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄戦の実相・教訓の次世代継承 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する平和大使を育成するとともに、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを市民に啓発するため、市内中学校や市内商業施設等で平和祈念事業を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a)当初予算額	3,958	3,712	3,507	3,571	3,916
	(b)予算現額	3,958	3,712	2,440	2,365	3,916	
	(c)増減額(b-a)	0	0	▲1,067	▲1,206	0	
	(d)繰越額	-	-	-	-	-	
	A.計(b+d)	3,958	3,712	2,440	2,365	3,916	
	B.執行済額	3844	3642	2420	2,338	3,741	
	うち交付金充当額	3075	2913	1935	1,870	2,992	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	97.1%	98.1%	99.2%	98.9%	95.5%	
予算の状況の説明		・啓発イベントの実施のほか、2年ぶりに平和大使を長崎へ派遣するなど概ね事業計画どおりに執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
	県内研修及び県外研修に派遣する人数 ・市内中学生:8名、市内青年層:1名 ・フォローアップ研修:1回	目標	( 平和学習派遣実施 8人 )	( 平和大使育成 中学生8名 青年層1名 )	( 平和大使育成 9名 フォローアップ研修 1回 )	( 平和大使育成 9名 フォローアップ研修 1回 )	
		実績	平和学習派遣実施 8人	平和大使育成 中学生8名 青年層1名	平和大使育成 9名 フォローアップ研修 1回	平和大使育成 9名 フォローアップ研修 1回	
	平和大使を活用した啓発イベント実施回 ・5回	目標	( 5回 )	( 5回 )	( 5回 )	( 5回 )	
		実績	5回	5回	5回	5回	
	達成状況説明		・市立中学生8名及び青年層1名の計9名を平和大使として任命。平和学習に参加。 ・昨年度(令和3年度)平和大使に対し、フォローアップ研修を実施(1回)。 ・中学校イベント(4校)では、平和劇、平和大使新聞掲示、平和大使の活動報告を行った。また、市民イベント(1回)では、市内商業施設において、平和イベント(平和大使の活動報告、パネル展、平和劇)を実施した。				
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	本事業に参加した生徒や市民からアンケートを徴収し (1)「平和に対する理解が深まった。」 (2)「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う。」と回答する割合:80%以上	目標	( )	( ①25件 ②80% )	( (1)80% (2)80% )	( (1)80% (2)80% )	( )
		実績	/	①143件 ②89%	(1)97% (2)53%	(1)97% (2)93%	/
	目標	( )	( )	( )	( )	( )	
実績	/	/	/	/	/		
進捗状況説明		・アンケート調査の結果、「平和に対する理解が深まった」と回答する割合を80%と設定したのに対し、97%理解が深まったと回答を得た。 ・「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う。」と回答する割合を80%に設定したのに対し、93%という結果であった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本事業に参加した生徒や市民からアンケートを徴収し</p> <p>(1)「平和に対する理解が深まった。」と回答する割合:80%以上</p> <p>・中学校イベント、市民イベントを通して、平和大使の活動で学んだことの共有や平和劇を用いて追体験する内容を取り入れたことが目標値達成の要因と考えられる。</p> <p>(2)「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う。」と回答する割合:80%以上</p> <p>・イベントを通して戦争の悲惨さや、命の尊さを知り、平和を継承していく大切さに気づくことができたことが目標値達成の要因となったと考える。</p>	<p>「平和に対する理解が深まった。」及び「この事業で学んだことを誰かに伝えたいと思う。」と回答する割合が目標を達成したことについては、次代を担う人々、特に若い世代にとって同年代の平和大使を身近な存在と捉え、活動内容に興味関心を引きつけることができたものとする。また、相乗効果として自ら学んだことを誰かに伝えたいと思うきっかけにもつながっており、改善の必要はないものと考えられる。</p>

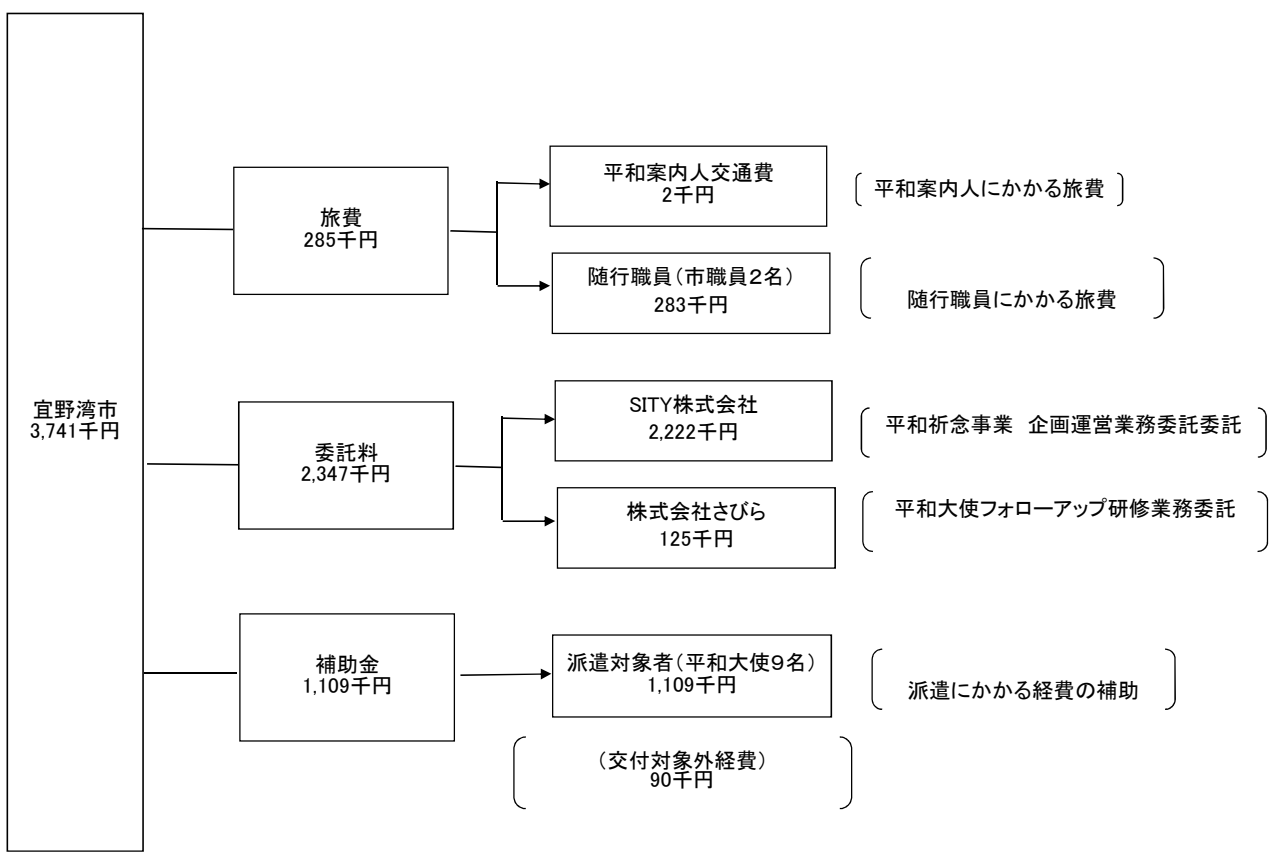
**今後の取り組み方針**

・平和大使育成事業については、今後も安定的に平和について市民啓発できるよう、毎年「平和大使(中学生8名、青年層1名)」を育成し、今後の平和啓発事業に関わることでできる人材育成を行う。

・平和祈念事業については、広く市民の平和意識の高揚に繋げるためWeb発信などを通して市民啓発に取り組む。また、戦争を経験していない若い世代が平和な世界を継承するため、自分ごととして考える機会を確保できるよう取り組みたい。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,831	3,741	2,992	749	90



資金の流 使途の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先選定については、プロポーザル方式により決定した業者で、妥当であった。 ○予算規模は、事業内容に見合った適正な額であり、妥当である。 ○費目、使途については、事業目的達成のために必要なものに補助しており、支出は適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

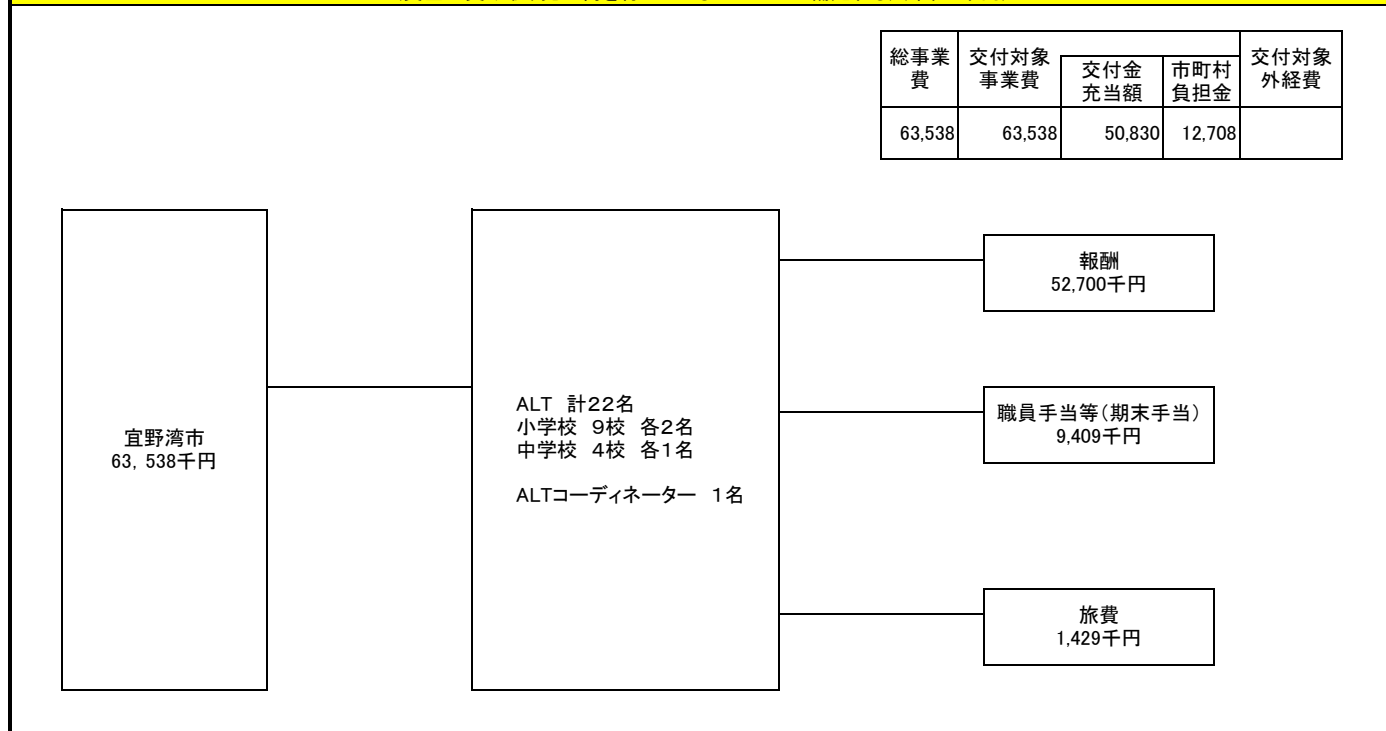
市町村名	宜野湾市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	英語教育推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア	
担当部課名	指導部 指導課	事業実施 (予定)年度	令和4年度～ 令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の 推進		
事業内容	小中学校において積極的に英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指し、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、英語によるコミュニケーション能力の素地を養うとともに、学習に対する意欲を高め、学力の向上を図る。						
効果発現年度	■当年度      □後年度(      年度)						
実施方法	■直接実施      □委託      □補助      □負担      □その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	72,695				
		(b) 予算現額	65,444				
		(c) 増減額 (b-a)	△ 7,251	0	0	0	
		(d) 繰越額					
	A. 計 (b+d)		65,444	0	0	0	0
	B. 執行済額		63,538				
	うち交付金充当額		50,830				
	次年度繰越額						
	執行率 (%) (B/A)		97.1%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		本事業は、昨年度までの『小学校英語教育課程特例校事業』と『外国人教師招致事業』の2事業を1本化したため、令和4年度は新規事業となる。予算の当初予算との差額については、素案提出時の期末手当率の想定との差額である。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	ALT(外国語英語指導助手)の配置 :全小中学校(13校)		目 標 ( 13校中13校 )	(                    )	(                    )	(                    )	
		実 績	13校中13校				
達成 状況 説明	当初予定通りの人員配置ができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R4成果目標(指標)		目標値 (年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値 (年度)
	「英語が好き」な児童の割合 85% (小学校5・6年) 「英語が好き」な生徒の割合 60% (中学校3年生)	目 標	小学5・6年の割合 85% 中学3年の割合 60%	(                    )	(                    )	(                    )	
		実 績	小学5・6年の割合 78.5% 中学3年の割合 (未実施)				
	児童英検の正答率 90点以上 (小学校5年生:ブロンズコース) 児童英検の正答率 85点以上 (小学校6年生:シルバーコース)		小学5年生ブロンズコース正答率 90点 小学6年生シルバーコース正答率 85点				
			小学5年生ブロンズコース正答率 87.9点 小学6年生シルバーコース正答率 81.7点				
	【参考指標】 沖縄県学力到達度調査において、県と本市との平均正答率の差 ・中学校英語 +1ポイント以上		目 標	1ポイント以上	(                    )	(                    )	(                    )
		実 績	1.9ポイント				
進 捗 状 況 説 明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校児童英検質問紙項目において、「英語が好き」と答えた児童の割合が78.5%となり指標を下回った。</li> <li>・小学5、6年:児童英語検定、全国と本市との平均正答率の差+0.7ポイントとなり、全国平均を上回った。</li> <li>・沖縄県学力到達度において、県と本市との平均正答率の差が、+1.9ポイントであり、指標の2倍近く上回った。</li> </ul>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、ALTを効果的に活用した授業の質的向上に取り組むとともに、授業における学級担任との役割分担についても研修等を通してさらに改善していく必要がある。</li> <li>ALTは外国籍の方が多いため、文化の違いから生じる働き方への見解の違いを説明していく必要がある。</li> <li>ALTの継続的な確保に課題がある。</li> <li>R4全国学力・学習状況調査で、実施教科と質問項目に急遽変更があり、英語に関する調査が実施されず数値が出せなかった。(中学3年)</li> <li>各学校における英語教育活動の充実を図る取組について、コロナ禍の為に活動内容に制限がかかり、目標に及ばなかったと推測される。(小学5・6年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTを効果的に活用し、ネイティブな発音と英語学習への意欲のさらなる向上を図るため、研修会等の内容をさらに充実させていく。</li> <li>「会話」分野の授業カリキュラムを検討するとともに、他学年の結果分析を行う。</li> <li>教師の声かけにより英語学習への意欲を高め、英語検定の受験者数の更なる増加を図る。</li> <li>途切れることなくALTを配置できるよう、年度末の面接時に次年度継続の意思を前もって確認する。</li> <li>今後、コロナ以前のALTを活用した交流やアクティビティを積極的に取り入れた授業を行う。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・年に2回の研修会を実施し、ALTの資質・能力の向上を図る。
- ・「会話」分野の改善に向けて、音声や基本的な表現に慣れ親しませるなどの授業カリキュラムを盛り込むとともに、1～4年の英語質問項目や小学5・6年の児童英検の結果分析により実態を把握し、授業改善に生かす。
- ・教師の声かけにより英語学習に対する意欲を高め、英語検定の受験者数のさらなる増加を図る。
- ・指導主事(英語担当)によるALTの授業参観及び指導助言を通して、ALTの指導力向上を図り、小中で連携した英語教育を今後もさらに推進していく。
- ・途切れなくALTを配置するため、面接時に継続の意思を確認する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金使途の流れ、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先として、事業の特性、履行能力等を勘案した上で選任しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名		宜野湾市				
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	4-③	学校ICT活用指導支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ	
担当部署名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成24~令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進	
事業内容	ICT支援員2名を配置し、児童生徒がICTを活用することで興味、関心を高めるなどの教育効果を図ることができる授業の支援、教職員向けの校内研修(ICT活用研修)の実施、ICT機器整備に関する施策・事業計画の作成を行う。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )					
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
		(a)当初予算額	5,362	5,328	5,195	5,419
	(b)予算現額	5,362	5,328	6,002	3,426	4,446
	(c)増減額(b-a)	0	0	807	▲1,993	▲545
	(d)繰越額					
	A.計(b+d)	5,362	5,328	6,002	3,426	4,446
	B.執行済額	5,226	5,291	6,002	3,425	4,298
	うち交付金充当額	4,180	4,232	4,801	2,740	3,438
	次年度繰越額					
	執行率(%) (B/A)	97.5%	99.3%	100.0%	100.0%	96.7%
予算の状況の説明	欠員期間(2ヶ月間)により生じた不用額については補正減を行い、概ね計画通り事業執行を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況				
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	ICT支援員2名配置 情報夏期講習13回	目標 (    )	(    )	(    )	( ICT支援員2名 夏期講習会13回 )	
	実績				2名 13回	
(R3年度まで) ・情報夏期講習会 13回 ・情報教育研究会検証授業 4回 ・ICT活用主任担当員1名・ICT活用補助員1名配置	目標 ( 情報夏期講習 8回、検証授業 13回実施、2名 )	( 情報夏期講習 8回、検証授業 4回実施、2名 )	( 情報夏期講習 13回、検証授業 4回実施、2名 )	(    )		
実績	4回 4回 2名	0回 2回 2名	0回 11回 2名			
達成状況説明	・ICT支援員2名を配置することができた。ただし、1名については6月からの配置となり、2か月間の欠員期間があった。 ・情報夏期講習会は予定通り13回(各校1回ずつ)実施することができた。各学校で集合研修を実施し、都合により参加できない教職員や受講者が繰り返し復習できるよう、講習会の様子を録画し、後日確認できるよう取り組んだ。 ・ICT支援員による定期的な学校巡回訪問に取り組み、教職員への支援を積極的に実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	教員にアンケート調査を実施し、授業にICTを活用して指導できる割合:80%以上	目標 (    )	( 授業にICTを活用して指導できる率:80%以上 )	( 授業にICTを活用して指導できる率:80%以上 )	( 授業にICTを活用して指導できる率:80%以上 )	(    )
		実績		小学校:96% 中学校:95%	小学校:99% 中学校:95%	小学校:72.3% 中学校:54.2%
	児童生徒にアンケート調査を実施し、ICT機器活用により授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	目標 (    )	( ICT機器により授業が分かりやすかったとした率:80%以上 )	( ICT機器により授業が分かりやすかったとした率:80%以上 )	( ICT機器により授業が分かりやすかったとした率:80%以上 )	(    )
実績			小学校:93% 中学校:83%	小学校:95% 中学校:91%	小学校:94.2% 中学校:92.9%	
進捗状況説明	(教員)アンケートは、ICT支援員による(1)授業支援、(2)ICT機器の操作方法、(3)ICT活用についての校内研修を受けたことがあるか等について問い、集計した結果、小中共に目標を達成することが出来なかった。 (児童生徒)ICT機器(電子黒板、デジタル教科書、GIGAスクール1人1台端末)を使った授業について、「分かりやすい、どちらかというとなりやす」と回答した児童生徒が大多数となり、目標を達成できた。					

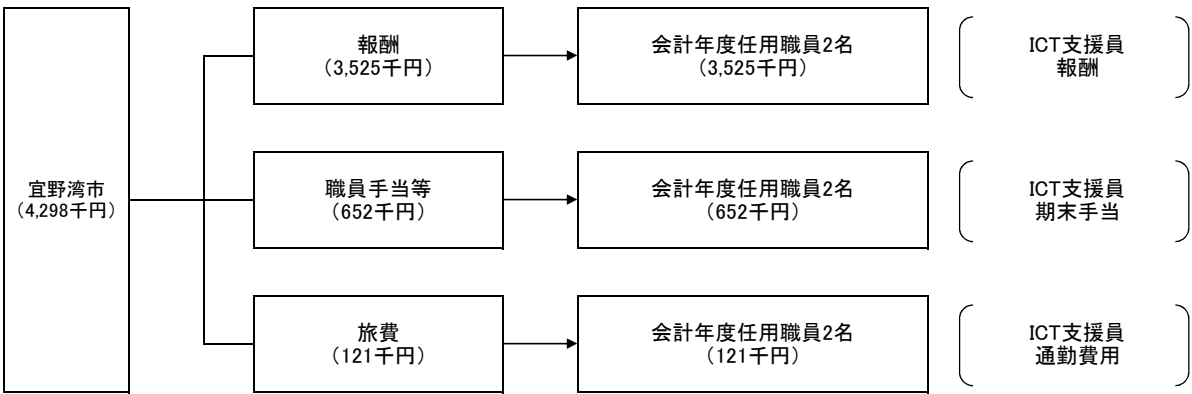
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>目標達成に至らなかった理由として、下記3点が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回整備した電子黒板や書画カメラを始め、令和3年度から活用が始まったGIGAスクール構想に基づく児童生徒1人1台端末など、学校内にICT機器類やソフトウェア類が増加し、対応に苦慮した先生が多かった。</li> <li>・ICT支援員について、年度当初の任用が出来ず支援体制に影響があった。</li> <li>・効果検証のためのアンケート調査について、回答数が思うように集まらなかった。効果を正確に図る目的で年度末(2月)に実施したが、中3生の受験対応や、卒業・進学準備のため学校からの回収が進まなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増加する機器類を効率的に利活用及び運用するにあたり、教職員が取り組み易いようマニュアル化するなど、対応が必要である。</li> <li>・ICT支援員の欠員は、学校訪問が滞るなど業務進捗に直結するため、待遇改善等について検討し、安定確保を図る必要がある。</li> <li>・アンケート実施時期や回数を見直す。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・機器操作や障害対応、授業活用に関するマニュアル作成をすすめ、学校の負担軽減を図る。
- ・ICT支援員の待遇改善や公募方法等を見直し、安定確保を図る。
- ・効果検証のためのアンケート調査について、期中(夏季休業中や二学期開始時期等)と期末(1月ごろ)の年2回実施し、推移を計測するとともに回収率向上を図る。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
4,298	4,298	3,438	860	0



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は、実績、履行能力等を勘案した上で、選任しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-④	ICT機器活用推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ	
担当部署名	指導部 はごろも学習センター	事業実施(予定)年度	平成31~令和4年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進		
事業内容	児童生徒の情報活用能力の育成環境を整備するため、小中学校に電子黒板及び書画カメラを整備する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額		184,499	16,474	5,494	201,828
		(b) 予算現額		182,238	14,737	4,569	183,335
		(c) 増減額(b-a)	0	▲2,261	▲1,737	▲925	▲18,493
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		0	182,238	14,737	4,569	183,335
	B. 執行済額			180,319	14,737	4,569	183,336
	うち交付金充当額			144,255	11,789	3,655	146,668
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	98.9%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		入札執行残について、12月補正にて補正減し、計画通り事業を執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	指導者用デジタル教科書:国語、社会、数学、理科、英語	目標	(      )	( 国語、社会、算数、理科、音楽、英語 )	( 国語、社会、数学、理科、英語 )	(      )	
		実績		国語、社会、算数、理科、音楽、英語	国語、社会、数学、理科、英語		
	市内小学校へICT機器の整備を行う。電子黒板、書画カメラ、機材等送受信装置等	目標	電子黒板、書画カメラ、機材等送受信装置	(      )	(      )	(      )	
		実績	電子黒板、書画カメラ、機材等送受信装置				
	校内ネットワーク基盤再構築及びLAN配線等再整備を行う	目標	校内ネットワーク基盤再構築・LAN配線等再整備	(      )	(      )	(      )	
		実績	校内ネットワーク基盤再構築・LAN配線等再整備				
	電子黒板、書画カメラの整備	目標	(      )	(      )	(      )	( 電子黒板、書画カメラの整備 )	
		実績				電子黒板 275台 書画カメラ 183台	
達成状況説明	小学校に電子黒板151台、書画カメラ151台を整備した。 中学校に電子黒板124台、書画カメラ32台を整備した。 ・小中学校の2学期開始に合わせて電子黒板及び書画カメラが整備できるよう準備を進め、機器整備、使用方法の研修を夏季休業中に実施することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	教員にアンケート調査を実施し、授業に電子黒板を活用して指導できる割合:80%以上	目標	(      )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	(      )
		実績		97%	67%	87.4%	
	児童生徒にアンケート調査を実施し、電子黒板の活用により、授業が分かりやすかったと答えた割合:80%以上	目標	(      )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	(      )
		実績		90%	88%	95.6%	
	進捗状況説明	(教員) 多くの教職員が電子黒板を使った授業を「ほぼ毎日・毎回」又は「2,3日に1回」使用していると回答し、日常的に授業で活用していることが分かった。 (児童生徒) 児童生徒においても「電子黒板を使った授業は分かりやすかった」又は「どちらかというと分かりやすい」と回答しており、目標を達成できた。					

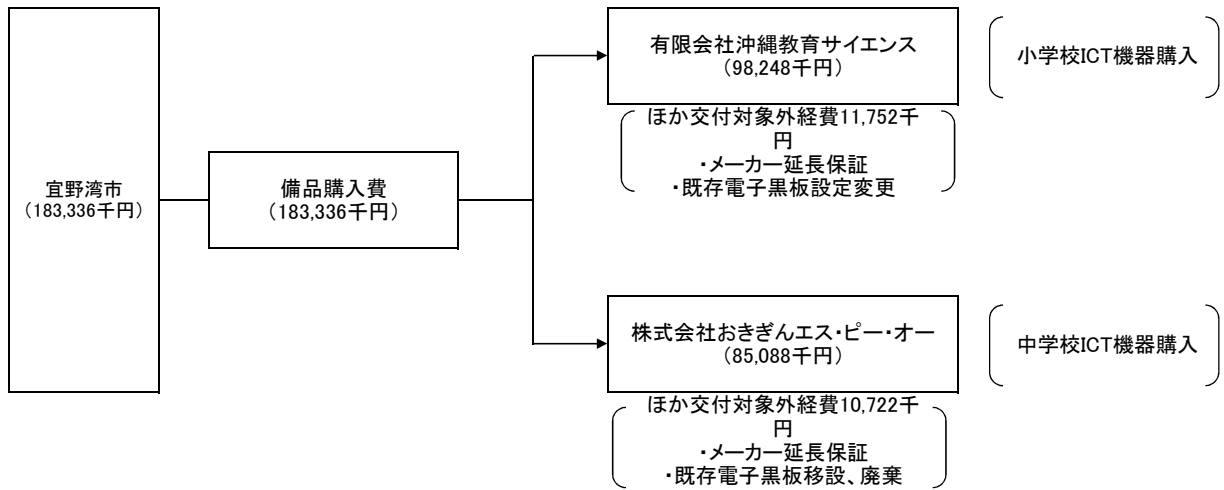
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・アンケート結果においては、大多数の教職員が電子黒板等を授業で利用していることが分かったが、活用頻度に二極化が見られた。	・学校間や教職員間で使用頻度や利活用の格差が小さくなるよう、ICT支援員による支援や授業活用の例示、環境整備(安定した通信ネットワークや故障対応等)について、引き続き対応する。

**今後の取り組み方針**

電子黒板や書画カメラを活用した優良授業例等を各学校と共有するなどし、日々の授業での積極的活用を推進する。併せて、研修会の実施や機器のメンテナンス、ICT支援員によるサポートを引き続き実施し、授業での活用率、児童生徒の授業理解度の向上に向け取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
205,810	183,336	146,668	36,668	22,474



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 支出先は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○ 予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○ 費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものか等について、額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	4-⑤	中学生語学研修派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア		
担当部署名	指導部 指導課	事業実施(予定)年度	平成31年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	本市中学生10名を、外国語学習研修施設等に語学研修生として、6日間程度派遣する。また、外交関係官公庁等の施設見学により見聞を広めることで、コミュニケーションの能力の向上と国際的視野を育成する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
<b>予算額・執行額【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)			9,200	9,480		2,780
				9,200	0		2,600
			0	0	△ 9,480	0	△ 180
	B. 執行済額			9200	0		2,600
	うち交付金充当額			0	0		2,080
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	100.0%
	予算の状況の説明		令和2年度、令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大のため事業中止。令和4年度は海外への研修派遣を国内へ変更した。減額については、出発前に研修派遣者1名が新型コロナウイルス感染症に罹患したため、変更契約を行ったことによる減。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	市内在住の中学生10名参加	目標	(    )	(    )	(    )	市内の中学生10名	
		実績				市内の中学生9名	
		目標	(    )	(    )	(    )	(    )	
	実績						
達成状況説明	・研修直前にコロナに罹患し、生徒1名参加が出来なかった。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	語学研修生による本事業への満足度アンケート：満足割合 95%以上 【参考】過去の実績(短期海外留学実施の際、満足割合 平成28年度:98%、平成29年度:97%、平成30年度:100%)	目標	(    )	(    )	(    )	語学研修に対する満足割合 95%	(    )
		実績				満足割合結果 93%	
		目標	(    )	(    )	(    )	(    )	(    )
		実績					
進捗状況説明	・語学研修後の生徒の満足の割合が93%で、指標に僅差で及ばなかった。 ・満足度アンケートの結果から、自らの英語力について実感し、課題を見つけたり自信を持ったりすることが出来、英語学習に対する意欲を高めることが出来た。 ・事前学習を通して、連帯感を築くことや研修に対する意識を高めることが出来た。						

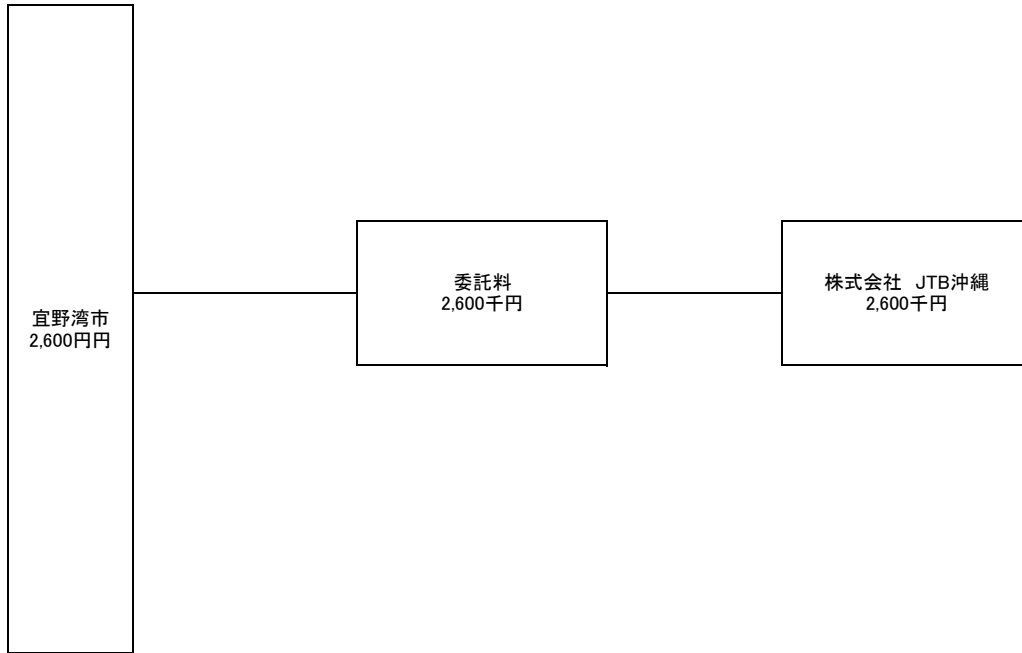
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修施設において、研修生の安心・安全に留意して語学研修ができるよう、信頼のおける旅行業者を選定する必要がある。</li> <li>新型コロナウイルス感染症等について、動向の把握と感染防止対策の徹底をする必要がある。</li> <li>国内でなく海外を強く希望した生徒が1名いたため、満足度が95%に達することが出来なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引率教諭、旅行業者等を交えて、綿密な計画書の作成と、生徒達への事前の学習会(研修会)を2回ほど実施する。</li> <li>生徒の語学研修及び官公庁見学がより充実したものとなるよう、事前準備をしっかりと計画を立てて実践する。</li> <li>研修内容としては、国内でも海外と同様の充実した研修ができることを周知・理解してもらう。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

・令和4年度においてもまだコロナ禍であり、生徒が安心して海外留学を実施できる状況下とは言えず、安心・安全な留学プランを計画・作成できなかった為、短期海外留学は実施できなかった。今後は海外での留学の機会を与え、生活体験を通じた異文化理解と英語による実践的なコミュニケーション能力の向上を目指す。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
2,600	2,600	2,080	520	



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の選定方法は、プロポーザル方式により決定したため妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、事業内容に沿った適正な規模であったため、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については、事業目的達成のため必要なものに限定されているため妥当である。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野湾市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	市民防災事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(4)-イ		
担当部署名	総務部 防災危機管理室	事業実施(予定)年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	大規模災害等に備えた強くしなやかな県土づくりの推進 Ⅲ-10-(3)		
事業内容	宜野湾市地域防災計画に基づき、災害に強いまちづくりの推進により、災害時の備蓄食糧及び保存水を確保し、適切な被災者支援を行う。						
効果発現年度	■当年度                      ■後年度(令和5年度)						
実施方法	■直接実施    □委託    □補助    □負担    □その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
		(a)当初予算額	41,418	6,123	9,341	35,800	1,676
	(b)予算現額	22,755	5,064	9,341	35,800	1,676	
	(c)増減額(b-a)	▲18,663	▲1,059	0	0	0	
	(d)繰越額	0	0	0	0	0	
	A.計(b+d)	22,755	5,064	9,341	35,800	1,676	
	B.執行済額	22,755	5,064	9,341	35,074	1,035	
	うち交付金充当額	10,204	4,051	7,465	28,059	828	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.9%	98.0%	61.8%	
予算の状況の説明	入札残が生じたため、執行率は61.8%となったが、計画通り業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)	達成状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	・R4年度備蓄食糧購入5,500食 ・R4年度保存水購入(500ml)1,104本	目標	(食糧5,500食 保存水552L)	(食糧5,500食 保存水552L)	(食糧5,500食 保存水552L)	(食糧5,500食 保存水552L)	
		実績	食糧5,500食 保存水552L	食糧5,500食 保存水552L	食糧5,500食 保存水552L	食糧5,400食 保存水552L	
	目標	( )	( )	( )	( )		
	実績						
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄食糧としてアルファ化米5,400食、保存水(500ml×1,104本)を整備した。</li> <li>・当初予定ではアルファ化米について5,500食を予定していたが、5,400食整備することで備蓄率の目標数量を満たすことにより数量を変更した。</li> </ul>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R5年度)	
		①保存食及び保存水の備蓄 ・R4年度備蓄食糧 備蓄率100% ・R4年度保存水 備蓄率11%	目標	( ) (保存食91.36% 保存水5.99%)	( ) (保存食99% 保存水10%)	( ) (保存食100% 保存水11%)	( ) (保存食100% 保存水10%)
		実績		保存食91.36% 保存水5.99%	保存食87.01% 保存水7.99%	保存食100% 保存水9.99%	
		目標	( )	( )	( )	(80%以上)	( )
	宜野湾市防災訓練において訓練参加者に対するアンケートの結果「備蓄の重要性を感じた。」:「80%以上」と設定	実績				99.4%	
		目標	( )	( )	( )	( )	(2回)
毎年、整備した防災情報システムを活用した避難訓練を年に2回以上は実施することを目標とする。	実績						
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宜野湾市地域防災計画に基づき、避難所内最大避難者数3,071名×3食×3日=27,639食、3,071名×3L×3日=27,639Lを備蓄。R4年度は食糧を5,400食、保存水を552L(500ml×1,104本)備蓄した。</li> <li>・備蓄食糧については備蓄率100%を達成した。</li> <li>・防災訓練での備蓄に関するアンケート調査結果は「備蓄の重要性を感じた」との回答が99.4%であり、目標を達成した。</li> </ul>					

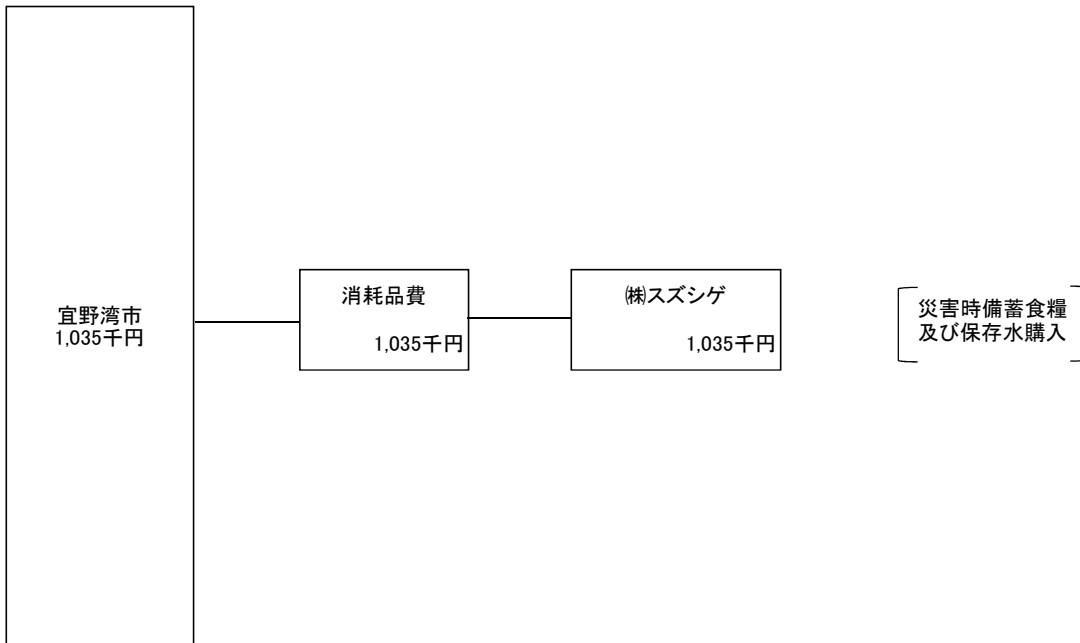
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄食糧はアルファ化米のみを備蓄しているため、アレルギー対応食、ハラル食、乳幼児食など近年、表出している様々な食糧ニーズに対する課題がある。</li> <li>・既存の保管場所では容量限界のため、保存水の備蓄が推進できていない。新たな保管場所の確保の課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なニーズに対応する備蓄食整備の検討をする。</li> <li>・新たな備蓄物資保管場所の検討をする。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

備蓄食糧は備蓄目標を達成することが出来たので、今後は様々な食糧ニーズに対応する備蓄食糧の整備を行う。  
 新たな備蓄保管場所について、今後公共施設に備蓄保管場所の確保について調整を行う。

**資金の流れ**  
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,035	1,035	828	207	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物品売買業者は指名競争入札で選定しており妥当であると判断した。</li> <li>・予算は3者見積による予定価格を設定しており、妥当であると判断した。</li> <li>・費目、用途については計画段階で検査しており、目的に即しており必要な物品であると判断した。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	宜野湾市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	5-②	沖縄観光防災力強化支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-2-(4)-イ		
担当部署名	総務部 防災危機管理室	事業実施(予定)年度	令和4~13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	大規模災害等に備えた強くしなやかな県土づくりの推進 Ⅲ-10-(3)		
事業内容	沖縄の観光振興の視点から観光避難民に対する防災対応を包括的に支援することにより、安心・安全な災害に強いまちづくりを推進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		59,284				
			53,700				
			▲5,584	0	0	0	0
			0				
		B. 執行済額	53,509				
		うち交付金充当額	42,807				
		次年度繰越額	0				0
		執行率(%) (B/A)	99.6%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
		予算の状況の説明	入札残が生じたことから事業費を5,584千円減額したが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	・食糧・主食(2,450食) ・食糧・副食(2,450食) ・保存水(2,545L) ・経口飲料(1,000袋) ・防災備蓄資機材倉庫(1基) ・仮設照明機(56基)	目標	(    )	(    )	(    )	(    )	
		実績	・主食・副食 ・水、経口飲料 ・防災倉庫 ・仮設照明機				
		目標	(    )	(    )	(    )	(    )	
		実績					
達成状況説明	・食糧(主食・副食)を2,450食ずつ、保存水(500ml)を2,545L、経口飲料800袋、防災備蓄資機材倉庫1基、仮設照明機56基を整備し目標達成となった。 ・当初予定では経口飲料水については1,000袋を予定していたが、商品の入数を確認したところ800袋整備することで備蓄率の目標数量を満たすことにより数量を変更した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	観光避難民向けの備蓄 ・R4年度備蓄食糧 備蓄率100% ・R4年度保存水 備蓄率100%	目標	(    )	(    )	(    )	(    )	(    )
		実績	・食糧 備蓄率100% ・水 備蓄率100%				
	宜野湾市防災訓練において訓練参加者に対するアンケートの結果「備蓄の重要性を感じた。」	目標	(    )	( 80% )	(    )	(    )	(    )
		実績		99%			
	進捗状況説明	・食糧を2,450食ずつ、保存水(500ml)を2,545Lを整備し、目標達成となった。 ・宜野湾市防災訓練において訓練参加者に対するアンケートについては、12月4日に開催した「令和4年度宜野湾市地震・津波避難訓練」終了時に参加者にアンケートを記入、提出頂いた。230名からの回答を集計した結果、目標である99%の参加者から「備蓄の重要性を感じた。」との回答が得られた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、表出している様々な食糧ニーズに対する課題については備蓄食糧をアレルギー対応食、ハラル食を選定することで問題解消となったが、乳幼児に対する食糧である粉ミルク、アレルギー対応粉ミルクについては備蓄できていない。</li> <li>・既存の保管場所では容量限界のため、備蓄が推進できていない。新たな保管場所の確保の課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も様々なニーズに対応する備蓄食等整備の検討が必要。</li> <li>・新たな備蓄物資保管場所の検討をする。</li> </ul>

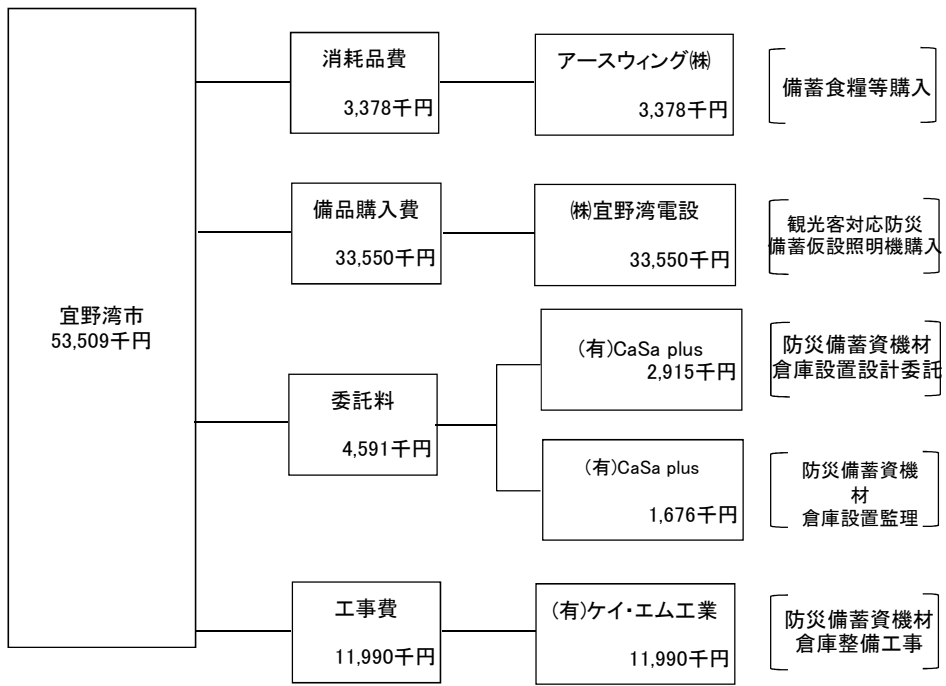
**今後の取り組み方針**

・乳幼児に対する食糧である粉ミルク、アレルギー対応粉ミルク等の備蓄、また乳幼児に限らず高齢者においても必要となる紙おむつの備蓄を進め、様々なニーズに対応する備蓄食等整備を行う。

・引き続き、宜野湾市地域防災計画に基づき設定した必要な保存食・保存水等を備蓄し災害に強いまちづくりを推進する。また、これまでに整備した資機材を活用した防災訓練を年2回以上は実施し、地域住民に備蓄の必要性等情報発信を強化する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
53,509	53,509	42,807	10,702	



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物品売買業者は指名競争入札で選定しており妥当であると判断した。</li> <li>・予算は3者見積による予定価格を設定しており、妥当であると判断した。</li> <li>・費目、用途については計画段階で検査しており、目的に即しており必要な物品であると判断した。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-①	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(地権者意向調査)		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ 駐軍軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進		
担当部署	基地政策部	まち未来課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖繩振興基本方針 該当箇所		
事業内容	普天間飛行場の跡地利用推進のため、関係地権者や市民の合意形成に向け、情報提供や意向把握等の調査を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
<b>予算額・執行額</b> <b>【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	18,494	18,974	18,804	21,281	18,882
		(b) 予算現額	18,284	18,974	16,894	16,999	16,846
		(c) 増減額(b-a)	▲ 210	0	▲ 1,910	▲ 4,282	▲ 2,036
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	18,284	18,974	16,894	16,999	16,846
		B. 執行済額	18224	18748	14490	16985	16745
		うち交付金充当額	18224	14998	11592	13588	13396
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	99.7%	98.8%	85.8%	99.9%	99.4%
予算の状況の説明	委託契約の残額及び旅費、需用費の執行残を予算減額しているが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
	市民向けの意向醸成イベント等・地権者向けの意見交換会の実施	目標	市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成	市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成	市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成	市民の活動支援及び意向醸成、地権者の活動支援・意向醸成	
		実績	市民の活動支援及び意向醸成を実施した。また、地権者の活動支援・意向醸成を行った。	市民の活動支援及び意向醸成を実施した。また、地権者の活動支援・意向醸成を行った。	市民の活動支援及び意向醸成を実施した。また、地権者の活動支援・意向醸成を行った。	市民の活動支援及び意向醸成を実施した。また、地権者の活動支援・意向醸成を行った。	
	目標	( )	( )	( )	( )		
実績							
達成状況説明	普天間飛行場の跡地利用推進のため、関係地権者や市民の合意形成に向け、情報提供や意向把握を行った。また、地権者の家族等によって構成される「普天間飛行場跡地を考える若手の会」や市民によって構成される「ねたてのまちペースミーティング」の活動を支援し、意向醸成及び合意形成についての取り組みを行った。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	市民向けの意向醸成イベント ①来場者数:230人	目標	( )	( 130人 100人 )	( 230人 80人 )	( 230人 80人 )	( )
		実績		コロナ禍により市民向けイベント・地権者意見交換会の中 止→地権者向けアンケート実 施回答489件(13.3%)	コロナ禍により市民向けバ ン・地権者意見交換会の中 止→情報誌でイベント内容等 の情報発信を実施	230人 80人	
	跡地利用計画(素案)策定後、当該跡地利用計画に対する市民、県民や地権者等の「肯定的な評価」80%以上	目標	( )	( )	( )	( 「肯定的な 評価」80% )	( )
		実績				84%	
進捗状況説明	・市民向けの意向醸成イベント等・地権者向けの意見交換会の実施により、市民・地権者の意向把握や参画する機運を高める取組を継続し、跡地利用計画の具体化に向けた関係地権者等の意向醸成を進めているところであり、令和4年度においては、関係地権者等の意向醸成・活動推進調査報告書を作成した。 ・県民フォーラムにおいて、アンケート調査を行い、「肯定的な評価(とても評価する・やや評価する)」は84%となった。						

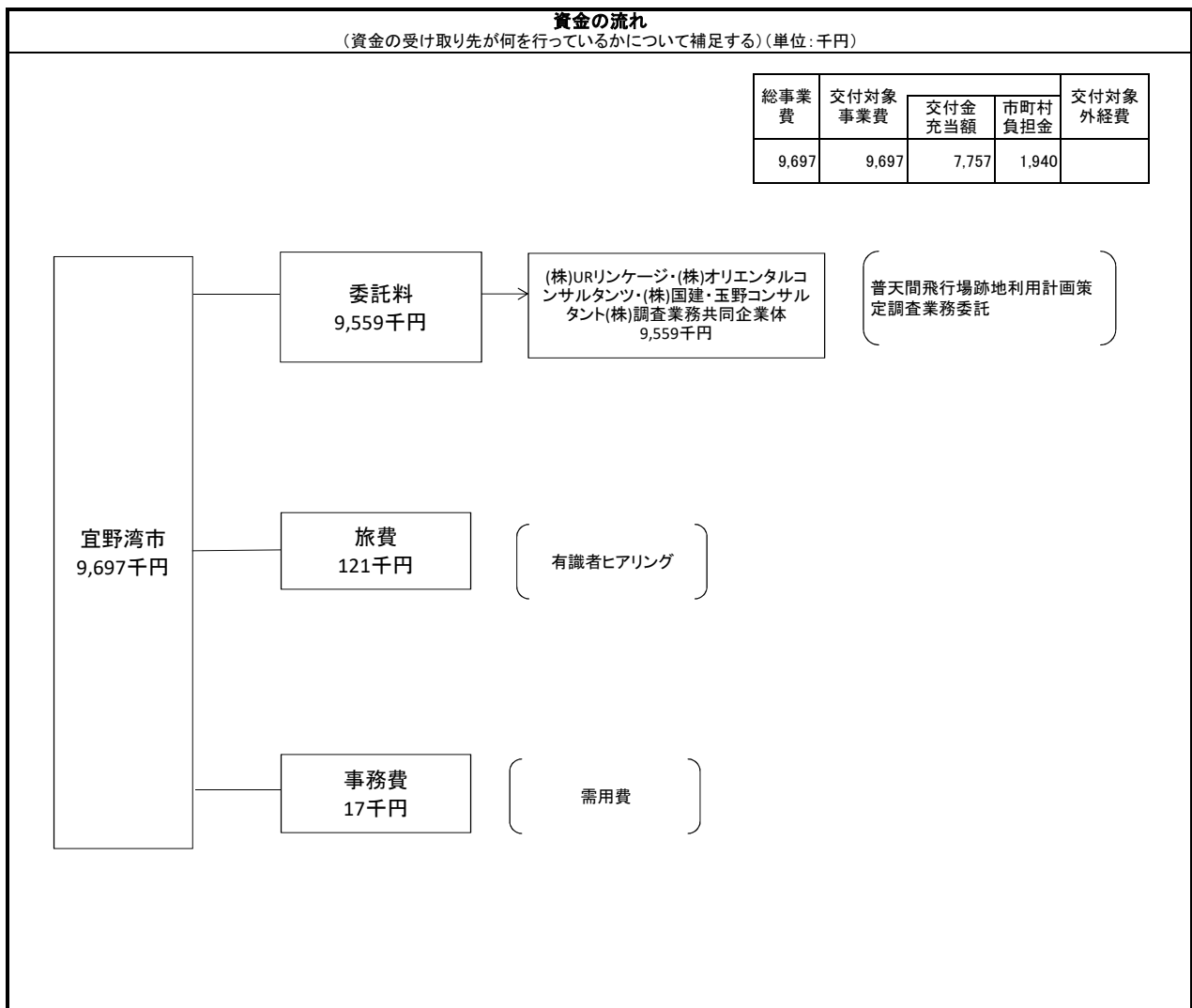
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普天間飛行場の返還時期は統合計画では示されているが、明確な返還期日が示されていないため長期的な取り組みが必要になるが、若手の会・NBMともに、返還時期の不確実さや周知活動の弱さ等から定例会への参加者減少や固定化が進んでおり、この先、会が自立していくための支援や組織強化が必要であるとともに、市民に対する返還後のまちづくりに対する興味喚起・気運醸成のため、市民向けの情報発信・意見収集の強化が必要である。</li> <li>・地権者の相続や金融商品としての土地の小口化により、地権者数が約4200名まで増加している中、地権者が返還後の土地活用等についてどのように考えているのか調査が必要である。</li> <li>・今後、跡地利用計画の策定が予定され、より具体的な検討が進められていく中で、今まで以上に多くの地権者・市民等の合意形成を図っていくという、「合意形成のすそ野を広げていく」ための取り組みが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報誌や地権者意見交換会等の情報発信の場を通して活動周知を行い、組織体制の見直しも検討できるよう支援する。また、市内各種組織・団体等へ跡地利用計画策定に向けた検討に対する情報発信・意見収集を行い、市民への跡地利用検討に対する興味喚起を図る。</li> <li>・多くの地権者が興味を持つテーマを設定・検証し、地権者意見交換会や情報誌で周知を図り、地権者の跡地利用への興味関心を高める。</li> <li>・市内各校の児童生徒に対し、跡地利用計画等の情報発信に係る取組みを行い、児童生徒の家族を含め、市民全体の意向醸成を図る。</li> </ul>
	<b>今後の取り組み方針</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地権者・市民などに対しては情報提供や意見交換を行い、意向醸成業務の取組み内容や跡地利用計画策定に向けた検討内容について周知を図る。</li> <li>・市内小中学校を対象に将来を担う子供たちに普天間飛行場跡地利用についての意向醸成を図るため、過年度に作成したプロモーションビデオを活用し市内各校の児童生徒へ向けて、普天間飛行場の跡地利用計画についての取組状況を情報発信し、気運醸成を図る。</li> </ul>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	16,745	16,745	13,396	3,349	
宜野湾市 16,745千円	委託料 16,500千円	昭和株式会社 16,500千円		(関係地権者等の意向醸成・活動推進調査業務委託【普天間飛行場】)	
	旅費 196千円	(先進地視察)			
	事務費 49千円	(需用費 使用料及び賃借料)			

資金の流 れ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札方式により適切に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類より確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市					
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】						
事業番号・事業名	6-②	普天間飛行場跡地利用計画策定事業(共同調査)			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ
担当部署名	基地政策部 まち未来課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進 Ⅲ-8	
事業内容	普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けて、跡地利用の骨格に係る分野別計画の検討及び市民・県民・地権者との合意形成、情報発信等を実施する。					
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )					
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	(a) 当初予算額	19,809	20,707	15,153	14,262	10,072
	(b) 予算現額	19,809	20,123	14,623	12,972	9,709
	(c) 増減額(b-a)	0	▲584	▲530	▲1,290	▲363
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	19,809	20,123	14,623	12,972	9,709
	B. 執行済額	18,812	19,761	13,711	12,958	9,697
	うち交付金充当額	15,049	15,808	10,969	10,366	7,757
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	95.0%	98.2%	93.8%	99.9%	99.9%
予算の状況の説明	・委託契約の残額及び旅費、需用費の執行残を予算減額しているが、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)	達成状況				
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の作成	<small>今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信を行う</small> ( )	<small>跡地利用計画(素案)策定に向けた検討</small> ( )	<small>「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の作成に向けた検討</small> ( )	<small>「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の作成</small> ( )	
		<small>今後の計画づくりの推進、県民・地権者との合意形成の促進、県内外に向けた「跡地利用情報」の発信を行った</small> ( )	<small>「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」(事務局案)を作成した</small> ( )	<small>「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」(委員案)を作成した</small> ( )	<small>「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」を作成した</small> ( )	
		( )	( )	( )	( )	
達成状況説明	・「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」作成に向けて、普天間飛行場跡地利用推進会議を設置し、昨年度作成した委員会案を基に「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」を策定。 ・今後の跡地利用計画策定に向けて、幅広い年齢層への情報発信を目的に県民フォーラム等を企画・開催。また、「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」のパンフレットを作成。					
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	「全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会案)」の作成に向けた検討調査を行い調査内容報告書を作成	( )	「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」事務局案の作成	「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」委員案の作成	「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の作成	( )
		／	令和2年度普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書作成	令和3年度普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書作成	令和4年度普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書作成	／
	跡地利用計画(素案)策定後、当該跡地利用計画に対する市民、県民や地権者等の「肯定的な評価」80%以上	( )	( )	( )	「肯定的な評価」80%以上	( )
		／			84%	／
進捗状況説明	・宜野湾市と沖縄県が平成24年度に策定した「全体計画の中間取りまとめ」について、平成25年度作成した行程計画に基づき、計画内容の具体化を図るとともに市民・県民・地権者等に対して情報発信等を行い、普天間飛行場跡地利用計画に反映させるための取り組みを進めている。 ・成果目標については、普天間飛行場跡地利用推進会議を設置し、「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」を取りまとめた。また市民・地権者への情報発信等の取り組みを進めているところであり、令和4年度においては普天間飛行場跡地利用計画策定調査報告書を作成した県民フォーラムにおいて、アンケート調査を行い、「肯定的な評価(とても評価する・やや評価する)」は84%となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普天間飛行場の返還時期は統合計画の上では示されているが、まだ不確定であることや、基地内の立ち入りが認められず、調査が十分に実施できないことから、跡地利用計画の策定に影響が生じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基地内の立ち入り調査等を早期に実現するため、関係省庁や米軍と調整、協議をすすめていく。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基地内の立ち入り調査等の早期実現に向けて関係省庁や米軍と調整、協議を進めていく。</li> <li>・令和4年度に作成した「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」を基に、計画内容の具体化に向けた継続的な取組みを進めていく。</li> <li>・令和4年度調査で更新した「バーチャル普天間未来シティ」等の情報発信ツールを活用し、県内外へ広く情報を発信するとともに、イベント等の様々な取組みを通じて、跡地利用計画策定に向けて、各世代、各分野等の多くの方々から意見聴取を行う。</li> </ul>		



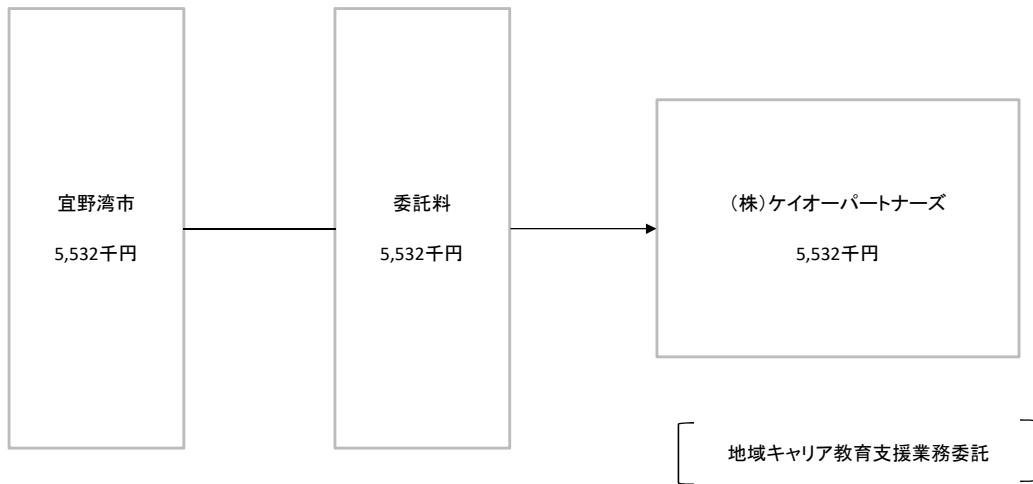
資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、プロポーザル方式により適切に選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類より確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	7	地域キャリア教育支援事業	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-(ウ)			
担当部署名	市民経済部 産業政策課	事業実施(予定)年度	平成30年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	若年者の活躍促進		
事業内容	地域の企業、学校、保護者等が連携した宜野湾市みらいづくり連携協議会を開催し、子どもたちが抱える課題の共有、解決策の検討をし、小中学生を対象にしたキャリア教育プログラム等を実施することで、児童生徒の就業意識の向上及び若年者の失業率の改善を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額【単位:千円】</b> (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d) B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額 執行率(%) (B/A)	(a) 当初予算額	5,269	5,269	5,269	5,269	5,532
		(b) 予算現額	5,269	5,269	5,269	5,269	5,532
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)		5,269	5,269	5,269	5,269	5,532
	B. 執行済額		5,269	5,269	5,269	5,269	5,532
	うち交付金充当額		4,215	4,215	4,215	4,215	4,425
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行により、業務を遂行した。					
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	宜野湾市みらいづくり連携協議会		目標 ( 3 )	( 2 )	( 2 )	( 2 )	
			実績 2	2	2	2	
	①市内小中学校全校での職業体験プログラムの実施 ②中学生の職場体験事業所の開拓 ③高校との連携模索、保護者向けキャリア教育講演会の拡大		目標 ( ①13校 )	( ①13校 )	( ①13校 )	( ①13校 )	
		実績 13校:3,685	6校:1,988名	①6校:1,547名 ② 未実施 ③ 未実施	①5校:1,347名 ② 5事業者 ③ 未実施		
達成状況説明		・みらいづくり連携協議会の開催については、対面による協議会を2回開催することができた。 ①学校でのキャリア教育プログラムの実施は各学校へのヒアリングや提案を行ったが、日程の都合が合わず、実施は5校に留まった。 ②キャリア教育プログラム講師の選定時、8事業所に職場体験受入れ可否についてのアンケートを行った。(5事業所受入可) ③各学校へ提案を行ったが、日程等の都合が合わず実施できなかった。					
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)
	就業意識の肯定的変化(80%以上)を含め、児童生徒へのアンケートにより、本事業のあり方について検証を行う。		目標 ( )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( 80%以上 )	( )
			実績	小学校:93.9% 中学校:97.0%	小学校:98.9% 中学校:93.7%	小学校:95.7% 中学校:98.5%	
			目標 ( )	( )	( )	( )	( )
			実績				
進捗状況説明		アンケート項目のうち、「今回の授業を受けて、将来働きたいと思いませんか。」に対して、「働きたいと思っている」、「少しは働きたいと思っている」で確認した。結果、小学校は95.7%、中学校は98.5%となり、一定の成果を挙げる事ができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会指導課から職場体験受入事業所の開拓について、要望がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により職場体験や職業人講話等の中止せざるを得ない状況が生じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の職場体験受入事業所の開拓については、教育委員会と商工会を繋ぎ、受入事業所開拓を進める。</li> <li>・職業人講話等をオンラインで開催する等、対面のプログラムと組み合わせで事業の実施を図る。また、GIGAスクール構想によるICT活用も考慮し製作した「じのーんあいあいマップ(宜野湾市人材マップ)」の専用ホームページを作成したので、今後は学校の授業での活用等について提案していく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の職場体験受入事業所の開拓に関しては、教育界と産業界をつなぐ支援をしていく。</li> <li>・市の広報誌やSNSへの記事掲載や協議会ブログ等で本事業の取組み内容を周知し、市内事業者が参画する機会を作っていく。</li> <li>・対面によるキャリア教育プログラムを主体とし、状況に応じてオンラインを活用した講話等を開催する。また、「じのーんあいあいマップ(宜野湾市人材マップ)」はフェイスブック上のサイトで、セキュリティ面から、GIGAスクール構想による端末で閲覧できないことから、誰もが閲覧できるよう専用ホームページを上げたので、利活用について提案していく。</li> </ul>		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
5,532	5,532	4,425	1,107	



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度はプロポーザル方式で受託者を選定した</li> <li>・人件費及び賃借料、その他諸経費は適正な規模で、実績に応じて清算を行った。</li> <li>・費目、用途については、毎月の報告を精査し、目的に即した経費であると判断した。</li> </ul>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



市町村名	宜野湾市						
令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8	市民会館機能強化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ		
担当部署名	教育部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成30～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化芸術の振興と文化芸術を支える環境づくり Ⅲ-3-(3)		
事業内容	文化活動の拠点として、市民の舞台発表や芸術鑑賞の場として活用されているが、建設から39年経過し、施設の老朽化が進んでいる。普天間飛行場移設及び跡地利用に至るまでに長期間を要することが想定されるため、機能強化とバリアフリー化を図りながら、安全・快適で利用しやすい環境を整え、市民が質の高い文化芸術に触れる機会や文化活動を行う場の確保を図るため、宜野湾市民会館の整備を実施する。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度(令和7年度)						
実施方法	■直接実施      ■委託      □補助      □負担      □その他( )						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	72,383	151,166	231,829	386,162	16,194
		(b) 予算現額	54,842	136,125	224,996	364,443	14,850
		(c) 増減額(b-a)	▲17,541	▲15,041	▲6,833	▲21,719	▲1,344
		(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計(b+d)		54,842	136,125	224,996	364,443	14,850
	B. 執行済額		54,842	136,125	224,996	364,443	14,850
	うち交付金充当額		43,873	108,900	179,996	263,007	11,880
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		委託料の執行残を予算減額しているが、計画的な予算執行により、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R4活動目標(指標)		達成状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	空調設備等改修設計(委託)		目標 (完了)	(完了)	(完了)	(完了)	
			実績				
			目標 ( )	( )	( )	( )	
		実績					
達成状況説明	空調設備・中央監視盤・防災盤等の改修設計を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R4成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(7年度)
	①空調設備改修【設計】		目標 ( )	(完了)	(完了)	(完了)	( )
	②中央監視盤改修【設計】		実績	完了	完了	完了	
	③防災盤改修【設計】						
	【R7成果目標】 年間利用者数 24,619人 年間公演回数 34回		目標 ( )	( )	( )	( )	24,619人 34回
		実績					
進捗状況説明	空調設備改修設計、中央監視盤改修設計、防災盤改修設計について、完了した。						

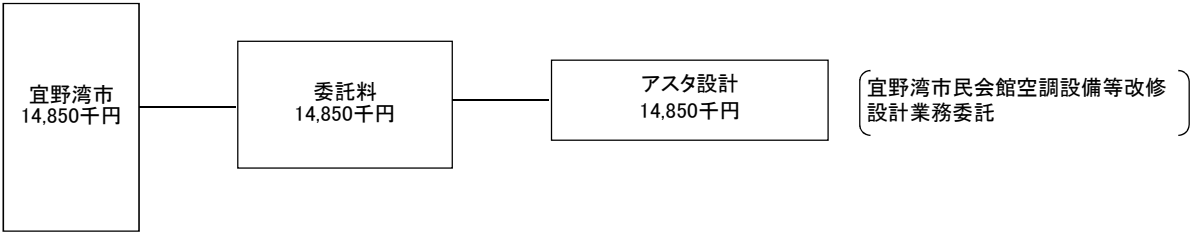
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	築39年が経過し、その間様々な修繕が行われた結果、設計当初の図面にはない配管があるなどの混乱が生じた。	設計を完了するまでに時間を要したことから、設計当初の図面に記載されていない個所については記録を更新することで、漏れを防止し、改修工事がスムーズに行えるよう資料等を提供できるようにする。

**今後の取り組み方針**

保全計画に基づき、快適でより利用しやすいよう機能面の向上を取り入れながら市民会館機能強化を進めていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

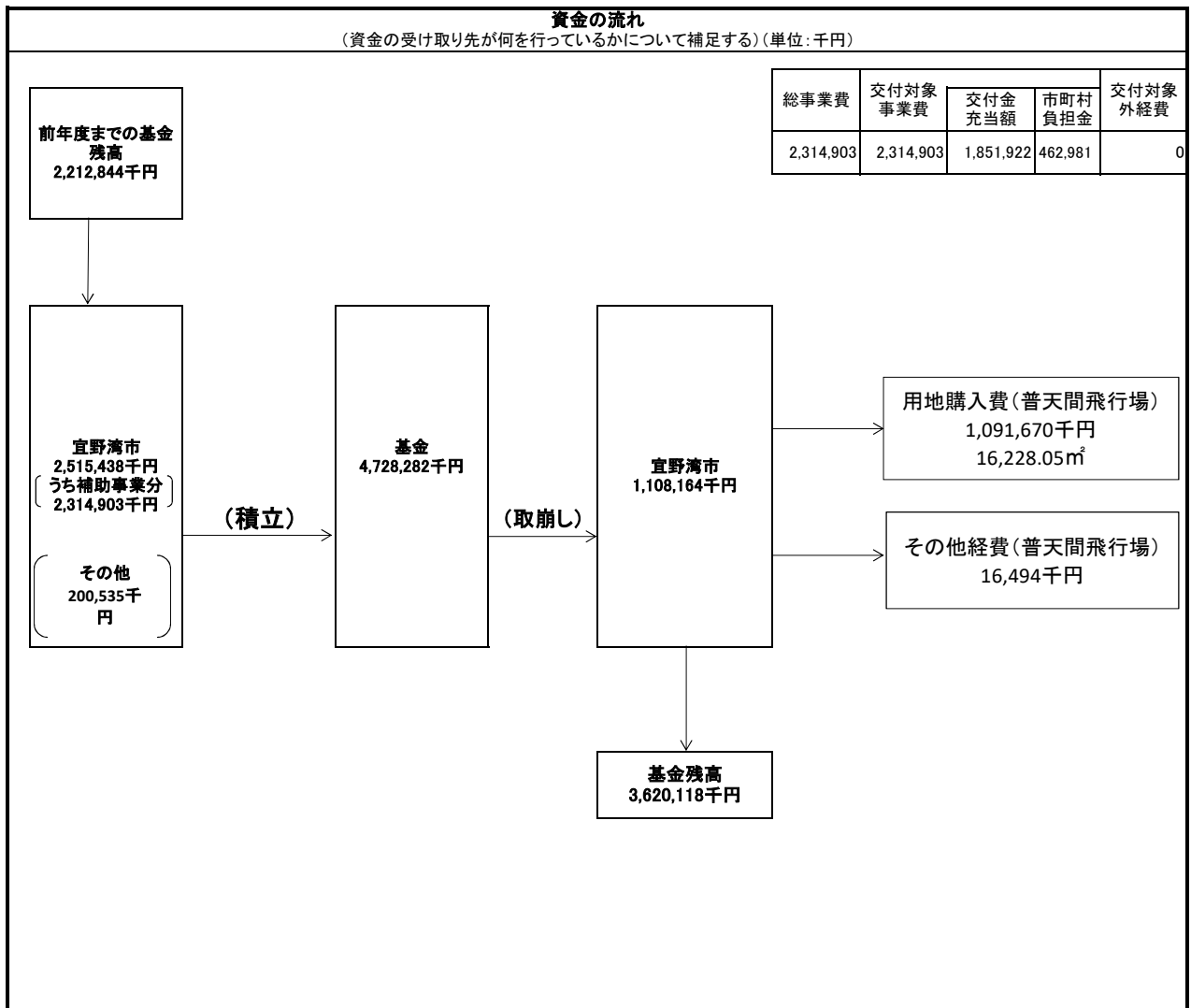
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,850	14,850	11,800	3,050	



資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の10%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野湾市						
<b>令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】</b>							
事業番号・事業名	9	宜野湾市基地返還跡地転用推進基金事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ	
担当部課名	基地政策部 まち未来課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進 Ⅲ-8		
事業内容	駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用を推進するため、基金を造成し、土地の先行取得に取組む。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(      年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(      )						
<b>予算額・執行額</b> 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	(a) 当初予算額	491,000				803,000	
	(b) 予算現額	491,000				2,314,903	
	(c) 増減額(b-a)	-				1,511,903	
	(d) 繰越額	-				-	
	A. 計(b+d)	491,000				2,314,903	
	B. 執行済額	491,000				2,314,903	
	うち交付金充当額	392,800				1,851,291	
	次年度繰越額	0				0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%				100.0%	
予算の状況の説明	・幼稚園、児童センター等の特定事業の見通しを追加し、第2回変更交付決定で交付決定を受けた。その後インドストリアルルコリドー地区の公園・緑地の特定事業も追加したことにより、他市町村からの流用を受け更に事業費を増額し、基金を積み増した。						
<b>活動目標(指標)及び達成状況</b>	R4活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	基金の積立	目標	(      )	(      )	(      )	(      基金の積立      )	
		実績				基金の積立	
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	
		実績					
達成状況説明	・駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用を推進するため、基金を造成した。						
<b>成果目標(指標)及び進捗状況</b>	R4成果目標(指標)	基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(年度)	
	●普天間飛行場 特定事業の用に供する土地取得目標 15,000㎡(達成率約74%) ※達成率:先行取得目標面積(145,400㎡)に対する累積取得面積の割合	目標	(      )	(      )	(      )	(      15,000㎡      )	(      )
		実績				16,228㎡	
		目標	(      )	(      )	(      )	(      )	(      )
		実績					
	進捗状況説明	普天間飛行場について、過年度平均値(11,360㎡)に対し、取組推進のため、土地取得目標:15,000㎡と高く設定し、その目標達成に向けて、地権者戸別訪問等を行いながら、計画的に土地取得をおこなった結果、実績として、それを上回る16,228㎡となった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・土地の先行取得制度は、任意申出による土地売買であるが、相続や金融商品としての土地の小口化により、地権者数が約4200名まで増加しており、制度自体の存在を知らない地権者が多数存在する。</p>	<p>・H25～R3実績の平均値:11,360㎡に対し、R3年度から実施した地権者戸別訪問等により、実績が増えていることから、R5以降、戸別訪問や制度周知の強化が必要。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>返還後の跡地利用の推進を図るべく、令和13年度までの間で、普天間飛行場及びインダストリアル・コリドーにおける必要な土地について100%の取得をめざし、戸別訪問数を増やし、土地取得制度の広告を行うなど、計画的かつ継続的に先行取得を行っていく。</p>		



資金の流 点検・ 評価・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○基金積立事業であり、預入先などの選定は基金運用検討委員会にて適切に行っており、妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類より確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	